

特集：基礎からわかる！ 新指導要領とこれからの国語



April 2020
大修館書店 113

読んで納得！ 新課程Q&A 2

幸田国広 / 島田康行 / 西一夫

初谷和行 / 藤森裕治 / 山下直

大修館教科書でできる、新課程への準備！

×『国語総合 改訂版 現代文編・古典編』

「現代の国語」「言語文化」の授業イメージ① 高橋龍夫 16

×『精選国語総合 新訂版』

「現代の国語」「言語文化」の授業イメージ② 奥村準子 21

×『新編国語総合 改訂版』

「現代の国語」「言語文化」の授業イメージ③ 高草真知子 26

×『現代文B 改訂版 上巻・下巻』

「論理国語」「文学国語」の授業イメージ① 大井和彦 30

×『精選現代文B 新訂版』

「論理国語」「文学国語」の授業イメージ② 永田里美 33

×『新編現代文B 改訂版』

「論理国語」「文学国語」の授業イメージ③ 石塚修 36

×『古典B』

「古典探究」の授業イメージ 石鍋雄大 38

新課程 選択科目履修パターンについて

編集部 42

令和3年度用 大修館書店 国語教科書のご案内 中面カラーページ

●
連載

展望 これからの国語教育 ことばのセンスを育てる国語教育 今井むつみ 43

青山あり！中国祠堂紀行②..... 屈原墓 平井 徹 47

国語教師のための
古典文法指導講座⑤ 紫式部にファンレターを書こう② 大倉 浩 52

コトバのひきだし⑤ 入れ替えられない「心」と「気持ち」 関根健一 54

●
コーナー

教室が活発になる 読むことで「伝え合う力」を高める取組 波多野郁子 49

授業のアイデア 〜プレゼンテーション・CM制作をとおして〜

投稿 『こころ』を立体的に読む——絵葉書・日光・晩餐・殉死—— 石川光男 56

えつらん室 オリンピックマネジメント／ろう者と難聴者のための目で学ぶ英語レッスン 60

名画で味わうギリシャ神話の世界／変動する世界の大学入試(仮)

国語のNews & Topics 62



Q&A 一覧

- Q1. 高校国語から、文学がなくなってしまうのでしょうか？ → p.4
- Q2. 「現代の国語」は現行「国語総合」の現代文編という理解でいいのでしょうか？ → p.5
- Q3. 「言語文化」は現行「国語総合」の古典編という理解でいいのでしょうか？ → p.5
- Q4. 「現代の国語」の「話すこと・聞くこと」とは、「羅生門」を読んだ後に話し合いをするようなイメージでしょうか？ → p.6
- Q5. 「現代の国語」は、契約書や法令の文章ばかりになるのでしょうか？ → p.6
- Q6. 「言語文化」には、近現代の小説は入らないのでしょうか？ → p.7
- Q7. 「言語文化」には、評論や随想は入らないのでしょうか？ → p.7
- Q8. 文学にも論理はあると思います。「論理国語」でも文学作品を扱ってよいのでしょうか？ → p.8
- Q9. 「文学国語」には、評論は入らないのでしょうか？ → p.8
- Q10. 選択科目は実質、「論理国語」と「古典探究」しか取れなくなるのでしょうか？ → p.9
- Q11. 「論理国語」は、評論文の読解を主とする科目になるのでしょうか？ → p.10
- Q12. 「古典探究」を取らないと、古典は扱えないのでしょうか？ → p.10
- Q13. 「国語表現」は、現行「国語表現」とどう違うのでしょうか？ → p.11
- Q14. 「古典探究」は、現行「古典B」とどう違うのでしょうか？ → p.11
- Q15. 「実用的な文章」とは何ですか？ どのような授業を想定しているのですか？ → p.12
- Q16. 「読むこと」の時間は大幅に減ってしまい、アクティブ・ラーニングばかりになるのでしょうか？ → p.13
- Q17. 「話すこと・聞くこと」の授業は、どのようなことをすればよいのでしょうか？ → p.14
- Q18. 「話すこと・聞くこと」は、どのように評価すればよいのでしょうか？ → p.14
- Q19. 「書くこと」の授業は、どのようなことをすればよいのでしょうか？ → p.15
- Q20. 「書くこと」は、どのように評価すればよいのでしょうか？ → p.15

読んで納得！ 新課程 Q&A

新しい学習指導要領の実施が、いよいよ二年後に迫っています。
新科目はどんな内容になるのか？ 文学の扱いはどうなるのか？
高校現場の先生方からいただくことの多いご質問に対し、新指導要領に詳しい先生方よりご回答をいただきました。

【回答者の先生方】



幸田国広 早稲田大学教授



島田康行 筑波大学教授



西一夫 信州大学教授



初谷和行 武蔵野大学教授



藤森裕治 文教大学教授



山下直 文教大学教授

【現行科目と新科目の対照表】

	現行科目	標準単位数		新科目	標準単位数
必修	国語総合	④	⇒	現代の国語	②
				言語文化	②
選択	現代文 A	②	⇒	論理国語	④
	現代文 B	④		文学国語	④
	古典 A	②		国語表現	④
	古典 B	④		古典探究	④
	国語表現	③			

Q.1

高校国語から、文学がなくなってしまうのでしょうか？

幸田国広先生



A. 今回の改訂で高校国語から文学がなくなることはないでしょう。これまでの現代文や古典といった枠組とは大きく異なる科目構成へと変化するため、不安視する声もよく聞きますが、すべての高校生が学ぶ共通必修科目の一つ、「言語文化」では古代から近現代につながる言語文化として文学教材をしっかりと扱うことになりま

す。近代以降の文学教材を中心とした指導に限っても、年間二〇時間程度は充てなければなりません。必要な、そして社会から求められている言語能力を、高校段階として確実に身に付けるためにはそれぞれ性格の異なる必修科目が必要だという判断からです。実社会との接点や、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の能力については、主に「現代の国語」でしっかりと学びます。また、求めに応じて必要な情報を読み取ったり、複数の情報を関連付けて判断したり、推論を展開したりする読む能力も、「現代の国語」で身に付けることになります。

古典を含む文学をどのように教室で扱うかは、高校国語の長年の課題となっており、「言語文化」は現代文と古典に切り離すのではなく、ひと続きのものとして捉え直し、深く学ぶことを目指します。文章内容の読み取りだけでなく、「作品の成立した背景」や「他の作品などとの関係」といった点から文学に迫ります。高校生と文学との幸福な出会いを授業でどのように実現していくかが、これから問われるでしょう。

でも、二つの科目では指導すべき内容は異なっているのです。「現代の国語」と「言語文化」では相互に補い合う関係です。どちらかだけを重視して、どちらかを軽視しているという捉え方ではなく、国語科という教科を立体的な構造体として捉えてみてはどうでしょうか。

共通必修科目が二つに分かれたのは、国語科として

Q.2

「現代の国語」は現行「国語総合」の現代文編という理解でいいのでしょうか？

山下直先生



A. 高等学校の必修科目は「現代の国語」と「言語文化」の二科目となりましたが、これらは「国語総合」を現代文編と古典編に分けたものではありません。学習指導要領の「内容の取扱い」を見ると、「現代の国語」では年間七〇単位時間のうち、「話すこと・聞くこと」に二〇（三〇）単位時間程度、「書くこと」に三〇（四〇）単位時間程度、「読むこと」に一〇（二〇）単位時間程度を配当するよう示されています。このことから、「現代の国語」はこれまでの「国語総合」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域の指導に重点が置かれた科目となっていることがわかります。その分、「言語文化」は「読むこと」の領域の指導に重点が置かれた科目となっています。現代文編、古典編という分け方は、教材の違いに着眼した分け方です。新しい必修科目は、現代文と古典という教材の違いではなく、国語科で身に付けるべき資質・能力に着眼して構成されています。こうすることで、「読むこと」の学習に偏ることなく、三領域の学習がバランスよく行われることをねらいとしています。

Q.3

「言語文化」は現行「国語総合」の古典編という理解でいいのでしょうか？

藤森裕治先生



A. そう思われることも多いようですが、実は違います。「高等学校学習指導要領解説 国語編」に「上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深めることに主眼を置き」とあるように、この科目で扱う内容は古典だけではなくありません。伝統的な言語文化から現代の言語文化まで貫いて学ぶのが「言語文化」なのです。とはいえ、学習指導要領では古典の学習指導に四〇（四五）時間程度を充てるように指示されており、科目全体の六割程度の時間が古典の学びになっています。新しい教科書もこのことを踏まえますので、見た目は現行「国語総合」教科書の全体構成と似た印象になります。ただしここで注意していただきたいのは、古典の学習であっても、現代を生きる高校生の資質・能力の育成に資するという目標を柱に据えることの重要性です。作品が先にあつて、それに応じた指導をするという考え方はなく、古典が持っている普遍的な文化的価値とは何であり、それをどう継承し発展させていくのかという問いを常に持つことが大切です。

Q.4

「現代の国語」の「話すこと・聞くこと」とは「羅生門」を読んだ後に話し合いをするようなイメージでしょうか？



山下直先生

A.

「羅生門」を読んだ後に、生徒同士が作品の読みについて話し合う場面は、実際の授業でもよく見かける光景ですね。教師の一方的な講義によらず、生徒同士の交流の場面が設けられていることは大変よいことです。ただ、それが「話すこと・聞くこと」の学習になっているかと言ふと必ずしもそうではありません。「羅生門」を読んだ後の話し合いは、生徒各自が読みを深めるために行われることが多いのではないのでしょうか。生徒の読みを深めることにねらいがあるならば、それは「読むこと」の学習です。「話すこと・聞くこと」の学習は、学習指導要領の「話すこと・聞くこと」の指導事項に示された資質・能力を身に付けることが、単元の目標となっていない限りなりません。授業中に話したり聞いたりする活動を行っているからといって、それらがいつでも「話すこと・聞くこと」の学習になるということではありません。どの領域の学習となるかは、単元のねらいをどう設定しているかによるのです。単元のねらいを、教師自身がしっかりと意識することが重要です。

Q.5

「現代の国語」は、契約書や法令の文章ばかりになるのでしょうか？



幸田国広先生

A.

「現代の国語」は「実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力」を育成する科目です。だからといって、契約書や法令の文章ばかりを扱うことにはなりません。大切なのは、その科目で育成すべき資質・能力に適した教材は何かという点です。教材に関する留意事項に「C読むこと」の教材は、現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章」とあり、この部分が一人歩きしているのではないのでしょうか。ただし、「現代の国語」は従来の現代文とも異なります。三領域の比重を見ても、「話すこと・聞くこと」「書くこと」に多くの時数が配当されています。これは、「読むこと」に伴う手段としての言語活動の時間ではなく、それぞれ話す能力や書く能力そのものを計画的に指導する時間です。そうすると、教科書や教材のイメージはむしろ現行の「国語表現」に近いものになるかもしれません。そこに「読むこと」が加わりますが、もちろん論説や評論など馴染みのある教材も多く含まれるでしょう。

Q.6

「言語文化」には、近現代の小説は入らないのでしょうか？



藤森裕治先生

A.

もちろん入ります。最も典型的なのは、「羅生門」のように、古典文学に取材した作品群です。原作との共通点や相違点を確かめたり、それぞれの表現上の特色を考えたりの活動が行われることになります。

古典に典拠を求めない現代作家の小説にも、「言語文化」として学ぶべき要素はたくさんあります。作品の題材や設定に埋め込まれた文化的背景について学ぶことはもちろん、フィクションを物語る行為に特有の構成や語り方の特徴、あるいは比喩や象徴といった技法の理解も「言語文化」の教育内容となります。また、翻訳された外国の文学作品をもとに、原文と対比しながら文化としての日本語の特質を考える活動なども考えられます。

近現代の文章を読むことに充てられる実時間数はおよそ二〇時間ですから、決して潤沢とは言えません。そこで、古典の学びと近現代の小説の読みとを連携させた古典・現代文融合型の探究学習が注目されます。例えば、「恋愛・旅・季節感」などのテーマで古今の作品群を通読し、比較する活動です。

Q.7

「言語文化」には、評論や随想は入らないのでしょうか？



藤森裕治先生

A.

もちろん入ります。日本の文化や伝統について鋭敏な視点から論じた評論や随想は、数え切れないほどあります。日本語はどのような特性をもった言語か、我々はどうのような価値観や世界観をもって生活しているのか。こうした問いに対して生徒に新鮮な発見をもたらし、対象を広く深く考える力を養ってくれる評論や随想は、「言語文化」の学びにとってまたとない素材となります。

「言語文化」で扱う評論・随想に適した作品は、例えば言葉と伝統文化との関係について述べたものです。すぐに思い浮かぶのは、古典作品を引用しながら、そこにある文化的要素について考察している作品です。あるいは、日本語そのものが持っている文化的な特徴について考察する評論・随想なども選ばれてよいでしょう。

「言語文化」の学びでは、素材を歴史的・通時的に見つめる視点だけではなく、地理的・共時的に見つめる視点も大切にしてください。外国の文化との比較から日本の言語文化を考える視点です。文化を縦軸と横軸から見つめることによって、豊かな学びが生まれるのです。

Q.8 文学にも論理はあると思います。「論理国語」でも文学を扱ってよいのでしょうか？



幸田国広先生

A. もちろん文学作品にも論理はありますね。文学の学習は、緻密で繊細な論理の絡み合いを読み解くおもしろさがあります。注意したいのは、選択科目の「文学国語」と「論理国語」は、教育課程上の枠組で、それぞれ性格を異にした新科目だという点です。文学から論理を取り除くという意味ではありません。「論理国語」は「書くこと」と「読むこと」の二領域構成で、その配当時間比率はおおよそ4対6となっています。「書くこと」では、いわゆるアカデミックライティングを指導することになります。大学進学率が5割を超える現在、学術的な文章表現力の基礎を高校国語がしっかりと引き受ける必要があります。「読むこと」についても、文章内容の理解だけでなく、「この文章の論理はここがおかしい」といった、論理の飛躍や誤謬に気付き、情報の妥当性や信頼性を疑いながら論証性を身に付けていく、クリティカルリーディングを指導することになります。こうしたねらいに適合した教材が必要になるということです。文学教材で指導しようとなると、論理の妥当性や論証の精度は確かめにくく、ねらいの達成はかなり困難になるでしょう。

Q.9 「文学国語」には、評論は入らないのでしょうか？



幸田国広先生

A. 「文学国語」は、文学を深く解釈し、探究し、自ら創り出す科目です。「語り手の視点」「作品の成立した背景」「解釈の多様性」といった、真新しい指導事項が躍っています。文学を単なる一文種として扱うのではなく、重要な資質・能力として高校国語に位置付けようとしているのです。そのために、教材には多くのものが使われようとしています。「内容の取扱い」では、古典や近代以降の文語文などはもちろんのこと、「文学などについての評論文」も教材として扱えることになっています。「文学など」ですから、文学論だけでなく、単元の構成によっては、現代思想や社会批評に関する評論文なども、文学の考察に役立つものは必要な教材となります。ですから、教科書のイメージとしては小説や詩ばかりが並んでいるのではなく、評論文や随想なども目次に並ぶものになるでしょう。また、演劇や映画等の映像も教材として想定されており、かなり本格的な文学の学習が期待できます。「書くこと」の領域では、創作も行いうることになります。創作のための評論文なども教材になるでしょう。

Q.10 選択科目は実質、「論理国語」と「古典探究」しか取れなくなるのでしょうか？



幸田国広先生

A. 新しい選択科目は4つあります。どの学校でも国語科の単位数には限りがあるでしょう。しかもいずれも4単位ですから、どうしても「何かを選ぶ／何かは選ばない」ということになりますね。しかし、「論理国語」と「古典探究」になるのはどうしてなのでしょう。大学入試国語では評論と古文の出題が多いことから、現状、多くの高校でそれに準拠した年間指導計画になっているからでしょうか。本来、科目選択の基準は、各学校の育てたい生徒像やカリキュラムマネジメントが基本になります。共通必修科目の上にとの選択科目をどのように配置していくかは、まさに各学校の国語科デザインによるのです。各都道府県では減単位等の規定が作られることになっていきます。この規定をうまく活用すると、より多くの科目を設置できるでしょう。いずれにせよ、各校のこれまでの国語科の枠組をそのまま新科目にあてはめようとするとうまくいきません。新科目の枠組がこれまでとは大きく異なるからです。「論理国語」は評論を読む

科目で「文学国語」は小説を読む科目といった理解は正確ではありません。「論理国語」は、批判的に読む能力や論理的に書く能力を育成する科目です。文章の論理展開を理解したり要約をしたりするだけでなく、論理の正誤や適否を指摘したり、より厳密な論理を使うことができるような力を養います。そのために必要な教材を用いるのです。「文学国語」も、小説の場面展開に沿って人物の心情を辿るだけでなく、様々な角度から探究的に文学作品を読み解き、自ら文学を創り出す授業を目指します。各校の育てたい生徒像や、他教科等の関係から、どのような選択科目を設置し、生徒のどのような資質・能力の育成に注力するのかは、まさに各校のグランドデザインによります。さらに、「文学国語」や「論理国語」では古典も扱うこともできます。従来の現代文・古典という枠組に縛られず、各科目の性格・内容や内容の取り扱い等を精査して、各学校の国語科をデザインしてほしいと思います。

Q.11

「論理国語」は、評論文の読解を主とする科目になるのでしょうか？



島田康行先生

A. 「論理国語」においては、評論文の読解も大切な内容ですが、それだけが中心ではありません。この科目は、さまざまなテキストを複数の立場や観点から批判的に検討したり吟味したりする能力を養うとともに、検討・吟味の結果を踏まえて新たに構築した自分の考えを、筋道立てて効果的に表現する能力を養う科目として構想されています。領域ごとの配当時間で見ると、「読むこと」の八〇～九〇時間に対して、「書くこと」にも五〇～六〇時間が当てられています。「書くこと」にも大きな比重が置かれていることがわかるでしょう。

要するに「論理国語」は、テキストから読み取った内容を検討・吟味して自分の考えを形成し、その考えを根拠を示しながら筋道立てて述べる力の育成を目指す科目だといえます。

また、教材には従来のような評論文だけでなく、「現代の社会生活に必要なとされる実用的な文章」や「翻訳の文章や古典における論理的な文章など」も含まれ、さまざまな素材を活用する可能性が広がっています。

Q.12

「古典探究」を取らないと、古典は扱えないのでしょうか？



西一夫先生

A. 古典（古文・漢文）の教材については、必修科目では「言語文化」のみならず、選択科目でも「文学国語」や「論理国語」で扱うことが可能です。注意しなければいけないのは、これまでと同じような教材化が行われているとは限らないという点です。今回の改訂では資質・能力を基盤とした学習を目指し、内容が変更されています。そのため、その教材で何を身につけるのかを明確にすることが大切です。例えば和歌について学習する場合、その和歌単体の意味だけではなく、使われている文法事項や単語、全体的な文章の構成などがどのように関わっているのかまで理解する必要があります。

これまでの学習事項の多くは「知識及び技能」に位置づけられるものです。そのため、今回の改訂では、そうした従来の学習に加えて、思考力・表現力・判断力を新たに身につけさせようとしているのです。これは「文学国語」「論理国語」でも同じです。それぞれの科目のねらいに応じて、どのような古典作品を用い、どのような学習課題を設定していくかが大切なのです。

Q.13

「国語表現」は、現行「国語表現」とどう違うのでしょうか？



初谷和行先生

A. 現行「国語表現」は三領域や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（以下「伝国」）を総合的に扱う必修科目「国語総合」を受け、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」、「伝国」を扱う科目です。一方、新「国語表現」は、「社会・実用系統」である必修科目「現代の国語」を受け、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」、「知識及び技能」を扱う科目です。

ですので「国語総合」よりも社会生活の場面を想定した学習が多くなるイメージを持つておくといでしょう。そのほかの違いとして、現行の選択科目の指導事項と異なり新「国語表現」などの新選択科目では指導事項が三領域ごと（＋「知識及び技能」）に分けられていることが挙げられます。これは「何を学び、どのような力を養う学習か」をより明確にする意図があると考えられます。さらに、分けられた領域ごとに配当時間の目安が示されています。新「国語表現」では、「話すこと・聞くこと」に40～50時間、「書くこと」に90～100時間を配当することが明記されています。

Q.14

「古典探究」は、現行「古典B」とどう違うのでしょうか？



西一夫先生

A. いずれも「読むこと」を中心とした科目設定になっている点では大きな変更はありません。ただし「古典B」では、「古典としての古文と漢文を読む能力を養う」ことが前提になっていますが、「古典探究」では「我が国の伝統的な言語文化」への「理解を深め」、「伝え合う力を高め」たり、「自己を向上させ」たりすることを目指しています。

そうした目的を達成するために科目名にもある「探究」的な学習活動が求められています。具体的には「関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品」から「自分のものの見方、感じ方、考え方を深める」学習や、「多角的・多面的な視点から評価する」活動から古典に対する考えを広げたり、深めたりする学習が展開します。教材を読解して文法事項等を理解する学習を基盤としながらも、さらに生徒の興味関心に応じて課題を設定した発展的な学習を行う授業が考えられます。教材主義から脱却しつつ、主題（テーマ）を設定した授業をイメージすることが大切でしょう。生徒の主体的な学習が強く求められているのです。

Q.15 「実用的な文章」とは何ですか？ どのような授業を想定しているのですか？



山下直先生

A.

実用的な文章とは、学習指導要領の解説によれば「実社会において、具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれた文章」とされ、具体例として「新聞や広報誌など報道や広報の文章、案内、紹介、連絡、依頼などの文章や手紙のほか、会議や裁判などの記録、報告書、説明書、企画書、提案書などの実務的な文章、法令文、キャッチフレーズ、宣伝の文章、インターネット上のさまざまな文章や電子メール」が挙げられています。

では、これらの文章を用いた授業とはどのようなものなのでしょう。学習指導要領では以下に示すように、「書くこと」と「読むこと」の言語活動例に実用的な文章が示されています。

- ・ 論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する活動（「書くこと」の言語活動例ア）
- ・ 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、引用や要約などをしながら論述したり

批評したりする活動（「読むこと」の言語活動例ア）

「書くこと」では実用的な文章を読んで、自分の意見や考えを書くことが求められています。意見や考えを書く際の目的や意図に照らして実用的な文章を読み、必要な情報を集めて適切に引用しながら自分の意見や考えをまとめていくような授業が想定されます。「読むこと」の言語活動例では、実用的な文章自体の内容や形式について考えさせる活動が示されています。実用的な文章は、具体的な目的やねらいを達成するために書かれたものです。目的やねらいを達成するために、どのような工夫があるのかを考えさせるような授業が想定されるでしょう。いずれの場合も実用的な文章を読むわけですが、評論や小説を読む時と同じように書き手の主張を捉えたり、人物の心情を捉えたりするような読み方をしたのでは、学習のねらいを達成することはできません。ねらいに合わせた読み方を工夫することも重要です。

Q.16 「読むこと」の時間は大幅に減ってしまい、アクティブ・ラーニングばかりになるのでしょうか？



山下直先生

A.

学習指導要領の「内容の取扱い」を見ると、「読むこと」の年間の配当単位時間は、「現代の国語」が一〇～二〇単位時間程度、「言語文化」が古典を含んで六〇～六五単位時間程度となっています。つまり、必修科目では「読むこと」の指導を年間で七〇～八五単位時間程度行うこととなります。

一方、「国語総合」では七五～九五単位時間程度が配当されることになっています。（「国語総合」では「読むこと」の配当時間は示されていませんので、この数字は「話すこと・聞くこと」「書くこと」の配当時間を年間一四〇単位時間から引いたものです）

「現代の国語」と「言語文化」の「読むこと」は、「国語総合」に比べて最大一〇単位時間程度少なくなっていることがわかります。これは、年間一四〇単位時間のうちの一〇単位時間なので、割合で考えれば「国語総合」の「読むこと」より一四分の一程度減ったということになります。確かに減ってはいますが、このことを以て「大

幅に減った」とは言えないでしょう。新学習指導要領のもとでも、「読むこと」の指導の時間はほとんど変わらないと考えてよいと言えます。

また、アクティブ・ラーニングばかりになることを心配されているようですが、その背景には「読むこと」の学習の軽視につながるというお考えがあるのではないのでしょうか。アクティブ・ラーニングとは生徒自身による考えさせ、互いに考えを交流することを通して、一人一人の考えの形成に結び付けていくような学習です。これは、教師の一方的な講義ではなく、学習者が主体的に取り組めるよう指導を工夫することでもあります。

決して「読むこと」を軽んじることはありません。アクティブ・ラーニングは、学習者の主体的な取り組みや考えの形成に向けて推奨すべきもののなのです。高等学校の国語科の授業が教師の一方的な講義による知識注入型の授業から脱却するためにも、アクティブ・ラーニングの実践は重要なポイントになると言えます。

Q.17

「話すこと・聞くこと」の授業は、どのようなことをすればよいのでしょうか？



初谷和行先生

A.

「『羅生門』で話し合いをさせているから、「話すこと・聞くこと」の学習はしている」と言えますか。それは恐らく「読むこと」の指導のために「話すこと・聞くこと」の言語活動をしている」のではないのでしょうか。

「現代の国語」の指導事項を見ると、「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」それぞれの言語活動について活動の過程ごとに次のような指導事項が書かれています。

- ・目的に応じて話題を決める。
- ・情報を収集・整理して伝える内容を検討する。
- ・話の構成や展開を工夫する。
- ・状況に応じて資料や情報機器を用いたり表現の仕方を工夫したりして話す。
- ・展開を予想しながら聞き、評価したり自分の考えを形成したりする。

【聞くこと】

・話し合いの論点を共有し、表現や進行の仕方、結論の出し方を工夫する。

【話し合うこと】

話す・聞く・話し合うことを実際に行わせた上で、望ましいあり方を考えさせましょう。

Q.18

「話すこと・聞くこと」は、どのようにに評価すればよいのでしょうか？



初谷和行先生

A.

主に総括的評価（と形成的評価）を中心に述べます。話し言葉を対象に評価するときには、保存に関する課題が生じます。また、「表現」された内容を評価する場合、評価基準・基準の妥当性やそれに基づく教師の評価活動の妥当性、評価の一貫性に関する課題が生じます。

このうち保存性に関しては、書き言葉として残すことや情報機器を活用することが考えられます。これらの使い分けは環境面だけでなく、例えば情報の収集・整理についてはワークシートを対象に評価するというように、言語活動の過程も考慮してなされるべきでしょう。

一方、評価の妥当性や一貫性に関しては評価対象・方法の吟味が求められます。例えば「話す・聞く」の実際のパフォーマンスを評価対象にすることが時として必要となるでしょう。そしてその際ルーブリックを用いるなどして評価の基準を明確にし、学習者と十分に共有することが求められます。さらに学習者の自己評価や相互評価と教師による評価の齟齬を解消するようなふりかえりや評価の共有ができれば、なお理想的です。

Q.19

「書くこと」の授業は、どのようなことをすればよいのでしょうか？



島田康行先生

A.

「現代の国語」「論理国語」「国語表現」では、論理的な文章や実用的な文章を書く活動と情報を活用して書く活動が共通して配置されています。一方、「言語文化」「文学国語」には、文学的な文章を書く活動が配置されています。

「実用的な文章を書く」活動には「読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする活動」（現代の国語）など、また「論理的な文章」を書く活動には、論説文やその関連資料を読んで情報を収集・整理し、「自分の考えを短い論文にまとめ、批評し合う活動」（論理国語）などがあります。

一方、「文学的な文章を書く」活動には「感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする活動」（言語文化）、「小説や詩歌などを創作し、批評し合う活動」（文学国語）などがあります。日頃から創作に生かせる印象的な表現を蓄えておきたいものです。

Q.20

「書くこと」は、どのように評価すればよいのでしょうか？



島田康行先生

A.

各科目の「書くこと」の言語活動では、さまざまな種類の文章を書くことを通して、基礎となる知識や技能の定着を図るとともに、対応する指導事項が示す力の育成を目指します。したがってその評価も、基本的にはそこで育成が目指される力に焦点を当てて行っていくことになります。

「書くこと」の言語活動は、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」から、「構成の検討」「推敲」「共有」まで、科目の特性に応じて設計します。たとえば「構成の検討」について、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定する（論理国語）、読み手の関心が得られるようにする（文学国語）、読み手の同意／共感が得られるようにする（国語表現）などと、科目の特性に応じた検討の観点を設定しています。各科目の言語活動ではこれらの観点を踏まえ、育成すべき力を明確にしながら取り組みます。それぞれの観点をより具体化、焦点化した目標を設定して、身についた力との関係を見っていくこととなります。



「現代の国語」「言語文化」の授業イメージ①

たかはしたつお
高橋龍夫
専修大学教授



現代の国語「水の東西」（山崎正和）を読んで、
対比を使った論理構成を学ぼう

「水の東西」は、「鹿おどし」と「噴水」における水の鑑賞の違いに着目した優れた比較文化論となっている。

この評論が説得力を持つのは、単に両者の機能的側面を比較した物理的分析ではなく、筆者の繊細な感性に基づいた「鹿おどし」に対する時間と空間という哲学的な深い洞察を基点として水を捉えているからである。水の流れを「鹿おどし」の音の間隙から察知し、日本における自然と人間との伝統的な関係性を検証することで、それとは対照的に水を造形美として捉える西洋の「噴水」と比較していく。五感を通して筆者の「鹿おどし」への鋭利な捉え方が活かされているからこそ、西洋の「噴水」

の特徴を極めて対比的に例示することが可能となっている。比較文化論の基底には、こうした伝統文化への感性的発見と現代的視点からの理解とが巧妙に絡み合っていることには留意したい。しかも、そうした筆者の炯眼のみならず、本文は優れた比喩表現や詩的なリズムによる反復的な対比表現などによって読者を表現的にも魅了する芸術論となっている点にも着目する必要がある。水に対する東西の捉え方の相違を巧みな論理構成で段階的に論じていく手法を支えているのは、筆者の鋭利な感覚と豊かな表現力にあることを読解の過程で実感させたい。そうした学習のプロセスは、新指導要領「現代の国語」における「知識及び技能」カと、C読むこと（1）アに即した的確な読解によって達成されよう。

「水の東西」の読解を通して論理構成や比喩表現の理

解を深めた上で、新学習指導要領に即した学習としては、以下のような課題も一案として考えられる。

まず、生徒にとっても身近な事象に目を向けさせ、日常生活の中に存在する生活文化的な物事を印象的な観点から分析させる。最初は個人で書き留め、さらにペアやグループになってそれぞれ意見交換を行う。そうした中で、日本文化に内在する特徴的な側面として気付いたことを自由な観点からまとめいく。次に、そうした文化的事象と対照的な日本以外の生活文化的な物事の事例を挙げ、どのような点が対照的なのか、またなぜそう言えるのかについて各自でメモを作成し、グループワークによってお互いに意見を出し合う。そして、日本と日本以外とで対比的に捉えられそうな適切な事例を集約し、比較対象に対する関心や疑問点などを挙げていく。

さらに、対象事象に関する課題や疑問点などについて辞典類や関連書籍で調べたり、インターネットで関連情報や視覚的資料を検索したりするなど、図書館や情報機器の活用によって情報リテラシーを学ぶ機会とするのもよい。最終的には、具象的な分析から抽象的な評価へと段階的な考察を文章にまとめることができれば、論理構成の学びとしては十分に達成できたことになる。こうした成果は文集として公開したり、グループで視覚的効



『国語総合 改訂版 現代文編』（国総 344）p.296

果も工夫したプレゼンテーションを行い意見交換をしたりすることも考えられる（A話すこと・聞くこと（1）ア〈オ、及びB書くこと（1）ア〜エに対応〉）。近年は、教室内には日本以外の文化圏を出身とする生徒も少なくない。そうした生徒の見方や意見を積極的に導入して教室内での異文化理解の手立てとしても、本教材は活かすことができるであろう。「噴水」を造形美として捉える欧米側の視点に立つて、逆の立場から日本にはなぜ噴水が定着しないのか、といったテーマで話し合ったり、アジア圏での水の捉え方の共通点や相違点を批判させたりするのも興味深いと思われる。そうした比較文化論的な視点を国語学習において積極的に取り



『国語総合 改訂版 現代文編』(国総 344) pp.170-171

入れることは、もう一つの必修科目「言語文化」との連携としても有効な方法ともいえる。また、発展学習として、対比構造をもった日本文化論や比較文化論の代表的な文献を読み合ったり、対比とは異なるタイプの論理構成を用いて論じる評論の事例などを紹介したりして、学びを深めていくことも有効であろう(Ｃ読むこと(2)アイに対応)。

言語文化「羅生門」(芥川龍之介)と「今昔物語集」とを読み比べて、物語の設定について考えよう

「羅生門」は、既に膨大な実践例が蓄積されている定番教材である。ここでは、「羅生門」を単独に扱うのではなく、新学習指導要領の「言語文化」Ｂ読むこと(2)ウ、及び3内容の取扱い(4)アにあるように、古文との読み比べの教材として扱う一例を試みたいと思う。

芥川龍之介が「今昔物語集」を典拠に「羅生門」を執筆したことで、近代における「今昔物語集」の文学史的意義が再発見されたとされている(Ｂ読むこと(1)エに相当)。しかし、そうした背景を知らずとも、「羅生門」と「今昔物語集」とを読み比べることによって、「羅生門」の表現方法や構成、登場人物の設定が改めて明瞭に捉え

られるだけでなく、近代文学教材との比較から「今昔物語集」にアプローチすることで、古文に苦手意識を抱いている生徒にも身近に感じられるような学習効果がある。

まずは、両者の基本的な設定(時間、場所、登場人物、行動など)を具体的な叙述に即して取り上げ、表にまとめる方法などで両者の表現内容を的確に把握することが必須となる。例えば、グループに分かれて、グループ内で意見を出し合いながら対照表に記入するような授業展開も一案である。その段階で、「今昔物語集」については、古語辞典を用いて語句の意味を確認したり文法事項の説明を挿入したりするなど、必要に応じて古文における読解の基本的な学習を導入することも考えられる。だが、できるだけ生徒自身で本文の中から基本的な設定事項を捉えることで、古語に対する抵抗感をなくすることも現代文と古文との読み比べの学習効果の一つだと思われる。

こうした読み比べの学習を通して、「羅生門」の各場面に関する表現描写にも改めて着目することが可能となる。簡素で明瞭な「今昔物語集」の人物表現や場面描写に比べ、「羅生門」の表現描写からは、例えば門の楼へ上がる下人と門の上で死人の髪の毛を抜く老婆について、「やもり」「猫」「猿」「肉食鳥」といった動物の比喩

に着目することによって野性的で直情的な世界が展開していることの発見につながるだろう。また、主人公が「盗人」から「下人」へと変更されている点にもどのような意味があるかなど、考えさせたい要素が散見される。さらに、両者の比べ読みの結果として、なぜ下人に対して弁明する老婆の言葉が具体的に挿入されたのか、なぜ「下人」は、髪を取らずに老婆の着物だけを奪って逃げたのか、なぜ結末を「下人の行方は、誰も知らない。」という表現にしたのか、なぜ「羅城門」を「羅生門」というタイトルに変更したのか、など、読み比べの結果生徒から発せられる問いを、できるだけ活かすような展開によって、「羅生門」への読解のアプローチを導くことができるれば、主体的な読解の学びとして効果的であろう(Ｂ読むこと(1)イ・ウ・オに対応)。

あるいは、「羅生門」の英訳(ジェイ・ルービン訳『Rashomon and Seventeen Other Stories』Penguin Classics 2006に収録)を一部紹介することで、古典との比較だけではなく、英訳としてどのように表現されているのかに着目するなど、翻訳を通して日本の言語文化を比較検討する視点も提示すると、生徒の視野を広げることにもつながり、文学教材を通して国際的な感覚を磨く契機ともなわれる(3内容の取扱い(4)エ(ク)



に相当。

言語文化「鏡」(村上春樹)を読んで、「小説の語り」について理解を深めよう

「鏡」は、一人称の「僕」による語りが魅力的に活かされている作品であり、小説の構造を捉えるのに格好の教材でもある。自宅に「みんな」が集う中で、ホスト役の「僕」が最後に怖い体験を語るという前口上によって、あたかも「僕」が過去の体験談を目前で語っているかのように感じさせて、読者を回想に引きこんでいく。結末では語りの現在に戻りつつ話のオチを付けて、読者に体験談が実際に起こった出来事であるように強く印象付ける。こうした語りの手法を的確に捉えることは、B読むこと(1)ア・ウに該当し、B(2)イの言語活動にも開かれる視点となる。小説には作者が創りだす語り手が存在し、その語り手によって場面や時間を自由に移動させたり、語り方(擬態語などの表現効果)によって様々な印象やイメージ、感じ方を誘発させるということを実感させたい(B(1)イ・ウに相当)。

また、「僕」が恐怖体験に陥る状況をどのように語っているかにも着目させることで、単に登場人物の心情を

捉えるだけでなく、常に心情と相関的に関与してくる状況設定(時代状況、季節や時間、場所など)への視点を持たせることが小説を読む重要なポイントであることにも気付かせたい。「体制打破という時代」、「中学校の夜警」、「十月の初めの風の強い夜」、「三時」など、「僕」が恐怖体験をする状況を作者は表現巧みに設定し、読者を語りの世界に誘っていることに着目すること(3内容の取扱い(4)エ(イ)(ウ)に相当)は、自身の体験などを文章化する表現能力にも連動してこよう。なお、冒頭と結末の「僕」の語りの時制が一致していることから、過去の「僕」との対比を通して語り手の現在の状況を想像してみることが、小説の語りに自覚的になる学びとなる。

語りの手法を読解を通して十分に理解した上で、生徒自身が体験した出来事を、文体、時間構造や場面展開、表現効果などの手法を自覚して体験談を書いたり、生徒の前で発表したりすることで、言語活動を通して国語の表現能力を高めることにもなる(A書くこと(1)ア・イ)。

大修館教科書でできる、新課程への準備！ X「精選国語総合 新訂版」(国総346)

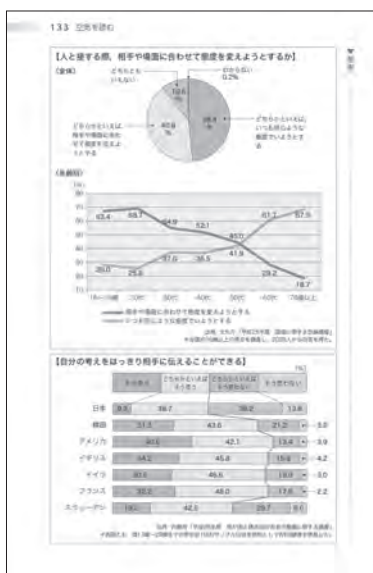
「現代の国語」「言語文化」の授業イメージ②

おくむらじゅんこ
奥村準子
筑波大学附属高等学校



現代の国語「空気を読む」(香山リカ)を読んで、客観的な文章の書き方を学ぼう

評論第三単元の「空気を読む」は、現代の日本人が抱える「空気を読む」(周囲の意見を気にして同調する)傾向と背景を、精神科医の香山リカ氏がいくつかの事例にもとづき考察している。著者によれば、本音を言えるに近い仲間ではなく、パブリックな関係でもない、いわば「準パブリック」のコミュニティで、日本人は場の空気を読み合い、自分の行動や発言をすり合わせるという。その背景には、場の少数派になることを恐れる行動原理があり、学校生活を送る高校生も同様の経験があるのではないだろうか。そこで、本教材を用いた言語活動として、「空気を読む」という経験をケーススタディとして書く活動を提案する。ケーススタディは事例を取り上げ



『精選国語総合 新訂版』(国総 346) p.133

て推論の妥当性を検証する研究方法である。高校生の身近な経験を取りあげ、その背景に筆者の指摘するコミュニティの枠組みや背景があるか検証する。

学習指導要領「現代の国語」書くこと」の指導事項に、「ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方

や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。」とある。

事例研究の場合、根拠となる事例は個人的な事情を含む場合が多い。そのため、事情の説明について、個人的な偏った表現とならないようにできるだけ客観的な説明の仕方が求められる。

「現代の国語」では、「情報と情報との関係」に関する指導事項も掲載され、「イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解する」とある。個別の事例から、筆者の意見の妥当性を検証することで、両者の関係を理解し、書くことの作業のなかで両者の扱い方を習熟していくことが期待される。ただし、個人的な事情の開示に拒否反応を示す生徒がいることも考えられるので、その場合は自分の経験だけではなく、身近な家族や友人へのインタビューという形で書かせる方法もあるだろう。

ケーススタディを書き終えたところで、随想第一單元「尋ねあい／自由な主体への成長」を読んでみてはどうか。少数派になることを恐れて場の空気を読みがちな高校生にとって、「互いの想いをていねいに尋ねあうこと」が自由な主体へと成長するために重要であることを改めて考えさせたい。

話し合いの話題として、(1) 自分がどのような記号や観念を消費しているか、(2) 消費から抜け出した「楽しみ」をどうやって獲得できるか、(3) 最終段落にある「楽しむ」という行為が持つ社会的な意義」とはどういうことか、などが考えられる。最後にグループの代表者がクラスに報告するのもよいだろう。

「現代の国語」では、「思考力、判断力、表現力等」A 話すこと・聞くことの指導事項に「ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること」とある。話し合いの場にふさわしい話題を提供することを意識させ、話を聞く側の評価や話し合いの総括をどのようにさせるか、グループの中で相互評価させてみてはどうだろうか。点数を付ける相互評価もあるが、話題を簡潔に記録させ、それに対するコメントを簡潔に書かせる形で話す生徒にフィードバックするだけでも生徒の励みになる。グループの代表発表やコメントシートの内容から、「話すこと」の指導内容に対する評価も可能である。

現代の国語 「贅沢を取り戻す」(國分功二郎)を
読んで、効果的な話し合いをしよう

評論第三單元「贅沢を取り戻す」は、哲学者の國分功一郎氏が、大量消費社会のなかで行われる「記号や観念の消費がもたらす悪循環」という消費行動から脱却し、「贅沢」すなわち「楽しむ能力」を身につけることの重要性を述べている。

本文では「浪費」と「贅沢」に対する新しい解釈が提案され、読んだ生徒は知的な刺激を受けることだろう。また、文中のグループームや携帯電話のモデルチェンジの事例は高校生にも身近なものであり、筆者の論は、大量消費社会がもたらす地球環境問題に警鐘を鳴らすメッセージとも受け取れる。

本論では「浪費(十二分なモノの享受)」と「消費(不満足をもたらし記号や観念の制限ない消費行動)」の相違を理解することで、自らの消費行動をふりかえる契機となるだろう。SNSの投稿にも同様の行動原理が見られるかもしれない。一方で、「贅沢を取り戻す」ための訓練の方法や、どのような「楽しみ」が享受できるのか、などについて話し合うことで理解を深めることもできるのではないだろうか。

言語文化 「良識派」(安部公房)と故事成語を
読み比べて、寓話について理解しよう

「言語文化」では、内容の取り扱いにおいて「近代以降の文章に関する指導については、二〇単位時間程度を配当する」とあり、さらに「我が国の伝統と文化に関する近代以降の論理的な文章や古典に関連する近代以降の文学的な文章を活用するなどして、我が国の言語文化への理解を深めるよう指導を工夫すること。」が求められるため、どのような切り口で小説教材を取り扱うか、これまで以上の工夫が求められる。

安部公房の「良識派」は、九〇〇字程度の短い寓話小説であるため、様々な授業展開が可能である。そこで、漢文の故事成語(「借虎威」「漁父之利」「蛇足」と読み比べて寓意を理解する授業を提案したい。「言語文化」では「思考力、判断力、表現力等」B 読むことの指導事項に「ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること」とあり、言語活動例として「ウ 異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動」がある。両者の共通点や相違点を明確にしなが、文章構成の巧みさについて考えさせたい。



『精選国語総合 新訂版』(国総 346) p.199

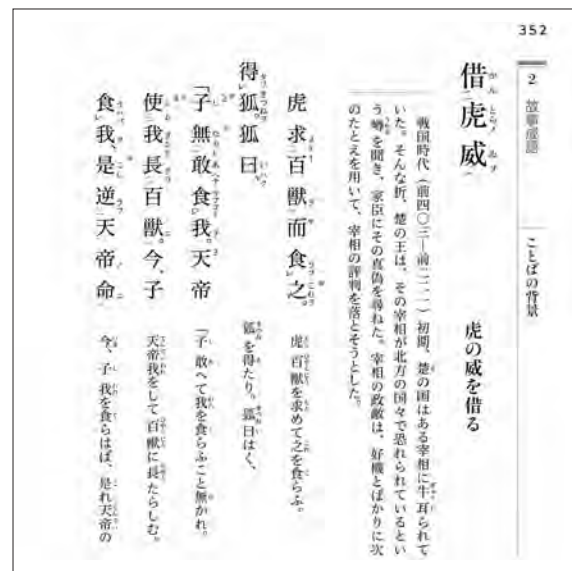
「良識派」は、「金網付きの家を建てる」と申し出た人間にニワトリがだまされて自由を奪われる話だが、その背景には、議論と検証を怠った多数派が、少数派の意見を聞かずに悲劇を招く人間社会の皮肉が描かれている。作品の後にはコラムページ「読者を引き込む——展開・寓意」もあるので、参考にさせながら寓意を読み解かせた上で、漢文と比べ読みさせたい。

故事成語の単元で掲載された漢文(出典は『戦国策』は、高校生にもなじみのある故事成語が紹介され、入門期の生徒にも読みやすい文章である。特に「借虎威」は書き下し文も記載されているので、時間をかけずに内容を理解できる。戦国時代に活躍した縦横家たちの外交策

言語文化「絵仏師良秀」と「地獄変」(芥川龍之介)を読み比べて、内容についての理解を深めよう

『宇治拾遺物語』の「絵仏師良秀」は、家族を犠牲にして自身の絵仏の上達と成功に執着した男の説話である。非道な言動の主人公が描いた絵仏が、後世の人々によって賞賛される皮肉な結末こそが古典の懐の深さであり、芥川の「地獄変」を生み出す力となったといえる。高校生にとって、家族よりも絵仏師としての成功を選ぶ良秀の姿は異様であり、共感しづらいものであるが、だからこそ自分とは異なる人々の生き様を知ること、自分のものの見方や考え方を深める契機にもなるだろう。

「言語文化」の(思考力、判断力、表現力等)B読むことの指導事項には「オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと」とある。古典を翻案し新たな小説を生み出した芥川の作品を古典の原作と読み比べることで、生徒が自身の生き方や価値観を再考する契機としたい。さらに、指導事項の「ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること」を意識し、両作品の共通点と相違点を確認させながら、翻案された作品の深まりを理解させたい。



『精選国語総合 新訂版』(国総 346) p.352

が寓話の形で巧みに展開される点は、説得力のある説明の仕方を身につけてほしい高校生の参考になるだろう。両者を比較して、寓意の背景にある作者の意図を考え、動物に喩えることの効果や会話の工夫について考えさせたい。時間があれば、昔話や童話など、これまで読んできたことのある作品の寓意について紹介してもよいだろう。

芥川の描いた「地獄変」では、良秀の娘や「堀河の大殿」など新たな人物が登場している。そして原作同様、本物の炎を描くことに執着した良秀は、牛車の中で業火に苦しむ娘を助けることなく炎を見続ける。しかし、絵を描き上げた良秀が縊死する結末が書き加えられ、芸術至上主義と家族愛の相剋を読者に問いかけている。授業で「地獄変」の全文を読むことは時間的に難しいので、あらずじと結末を説明した上で、堀河の大殿が命じた地獄変の屏風絵執筆をめぐる場面を紹介したい。良秀が「どうか檳榔毛の車を一輛、私の見てゐる前で、火をかけて頂きたうございます」と訴える場面は、青空文庫に歴史的仮名遣いのまま掲載されているので、文体の変遷を知る意味でもそのまま引用したい。(ただし、読みにくい旧字の熟語にはルビを付すなどの工夫は必要である。)時間があれば、イタリアの画家カラヴァッジョを紹介してはどうか。けんかで殺人を犯した後、逃亡生活の中で描いた彼の作品を後世の人々は高く評価し、イタリアのお札にもその肖像画が描かれたエピソードは、芸術と人生について色々考えさせるきっかけになるだろう。



「現代の国語」「言語文化」の 授業イメージ③

たかくさ まちこ
高草真知子
東京成徳大学教授



現代の国語 「人生は『動詞』で変わる」(齋藤孝)の
「マイ動詞」を使って、自己紹介をしよう

「マイ動詞」とは、自分を活性化させ、スイッチ・オンする動詞のこと。筆者の齋藤孝の場合、「泳ぐ」「浮く」「踏んばる」「揉む」が「マイ動詞」で、この動詞を意識して生活に取り入れると、心身を整えることができるという。つまり、動詞(行動)を変えることで、自分を変えることができるのである。

さて、自己紹介というと、部活動や趣味など、型どおりになりがちだが、「マイ動詞」をいくつか挙げることで、一味違った自己紹介になる。一人ひとりの生活や人柄がわかり、その人の意外な一面も見えてくる。

〈生徒の発表例〉

私にとっての「マイ動詞」は、「割く」「歌う」「渡す」

私の場合、「割く」「歌う」「渡す」、こんな動詞で毎日
を楽しむ過ごすことができます。

現代の国語 「何のために『働く』のか」(姜尚中)を
読んで、ディスカッションを行おう

「何のために働くのか」——この素朴な問いに対して、
皆さんならどう答えるだろう。お金のため？ 生活のため？
それとも、この仕事が好きで、小さい頃からの夢
だったから？

筆者の答えは、「他者からのアテンションを求めている
から」というものだ。「アテンション」とは、筆者に
よると、「ありがとう」「ご苦労さま」など、ねぎらいの
声をかけること。人は「アテンション」があるからこそ、
社会の中で自分の存在を認められ、安心感や自信を得ら
れる。やりがいや夢の実現などは、次の段階の話だとい
うのである。

これに対し、生徒はどう思うのか。日ごろ勉強や友人
関係で頭がいっぱいの彼らが、社会に目を向け、職業や
進路について考えるきっかけになればいいのだが…。

そこで、四、五人のグループを作り、次のようなテー
マで話し合わせてみたい。

です。

ものごとに集中できない時、私はこの長い髪の毛を割
きます。枝毛を割くことに集中していると、自然に「集
中スイッチ」が入ります。だから、もし授業中に私が枝
毛を割いていたら、「あつ、集中スイッチを入れているん
だな」と思ってください。決して授業が退屈なわけではあ
りませんから。

私は自転車をこぎながら、よく歌を歌います。うまく
声が出せると、そのあと一日中良い気持ちでいられます。
歌詞の世界を疑似体験できるのも、魅力です。

よく誕生日などに、プレゼントをあげたりもらったり
しますね。でも、私は何でもない日に食べ物とか文房具
とか、ちょっとしたものを渡すのが好きです。びっくり
させたり、喜んでもらえたりするのが好きなんです。で
も、リアクションが低いとすぐく気分が悪くなります。

①もし宝くじで三億円が当たったら、仕事をやめて遊ん
で暮らすか。

②人はなぜ働くのか。筆者の意見に対して自分はどう考
えるのか。

③「他者からのアテンション」と「他者へのアテンシヨ
ン」には、どんな具体例があるか。
活発な議論になれば、と思う。

言語文化 「季節の言葉と出会う」(黛まどか)を
読んで、季節感を養おう

「言語文化」とはどのような科目なのだろう。

私は最初、古典を学ぶ科目だと思っていたが、古典だ
けでなく、小説や詩歌、日本の文化について書かれた随
筆なども含まれるという。なんと幅広い分野をまたいでい
ることか。しかも二単位で！

それはともかく、「言語文化」を語るエッセイと云えば、
「季節の言葉と出会う」を思い出す。俳人の黛まどかが、
桜にまつわる季語「初花」「花吹雪」「花屑」「花筏」を
あげ、日本人は「うつろい」に美しさを見出した民族な
のだと述べる。桜の美しさが目に浮かぶようで、花吹雪
の頃に読みたい文章だ。

一方、韓国人がいちばん好きな花はむくげ。夏の暑さに耐えて、三か月もの間、次々と咲いてはしほみ咲いてはしぼんで、花を咲かせ続ける。花の愛で方にも、風土や文化によって感性の違いがあるようだ。

温暖化の影響で四季のうつろいが薄れていく今こそ、季語や季節を表す言葉を大切にしたい。そこで、授業では次のような活動を通して日本の美意識にふれてほしい。

①「松の内」「春一番」「蟬時雨」「紅葉狩り」「冬ごもり」など、季節を表す言葉の意味や背景を歳時記などで調べよう。

②調べた季語を使って俳句を作り、句会を開く。

③海外で生活した経験のある生徒や留学生がいれば、その国の花や自然に対する思いを紹介し、異文化交流のきっかけにする。

言語文化「古典の窓4『奥の細道』の旅」を使って、芭蕉の足跡をたどってみよう

『奥の細道』は、中学三年生の教科書に載っているため、「平泉」や「立石寺」を読んだことのある生徒はいるが、芭蕉がいつどこを出発し、どのような経路をたどってどこに着いたのかは知らない生徒が多い。

- ②芭蕉が訪ねた土地や歌枕について調べる。
- ③『奥の細道』のほかの句について調べて発表する。

言語文化「好きな漢詩を選び、ひらがな・七七調で書き換えてみよう」

漢詩の和訳というと、井伏鱒二や佐藤春夫を思い出すが、横山悠太は、漢詩を七七のリズムで、ひらがなで訳すという手法を編み出した（『唐詩和訳——ひらがなで読む名詩100』大修館書店、参照）。その方法を授業で試してみると、すぐに指折り数えて作り始め、集中して取り組んだ。その中の一首を紹介しよう。

秋夜寄丘二十二員外 韋応物
はるかなともよ

懐 君 属 秋 夜
きみをおもうは まさにあきのよ
散 歩 詠 涼 天
さんぽがてらに そらへとうたう
山 空 松 子 落
しずかなやまに まつかさはおち
幽 人 応 未 眠
きつとあなたも ねむれないはず



『新編国語総合 改訂版』(国総 347) p.292

このコラムの地図を見ると、元禄二年三月二十七日に江戸・深川を出発し、東北から日本海側を通って、同年八月、岐阜・大垣に到着したことが一目でわかる。長い旅路だが、半年足らずの間に徒歩で踏破したのである。恐るべき健脚！ さらにこのページには、各地で詠んだ有名な句が十句、名所の写真入りで掲載されているので、芭蕉と一緒に旅をしているような気分になれる。

ここでは、三、四人のグループを作り、次のような活動に取り組みたい。

- ①それぞれの句の季語、季節、切れ字、句切れを確認し、内容をまとめ、鑑賞文を書く。

漢詩を理解し、それにぴったりの七七調の和語を探す。それは、漢詩を味わう新しい方法のひとつである。漢詩の格調高い硬質な音と和語の柔らかい響きが対照的で、日本語の広さと奥行きが感じられるだろう。

言語文化「人面桃花」(孟榮)を読んで、漢文に親近感をもとう

漢文というと、故事成語、史話、思想と相場が決まっているが、実は漢文にもラブストーリーは存在する。たとえば、「人面桃花」。ふとしたきっかけで、ある青年と恋に落ちた少女が、彼のことを思うあまり食事ものをどを通らなくなり、死んでしまう。ところが、葬式の日に彼を訪れると生き返るといふ、びっくりするような話である。

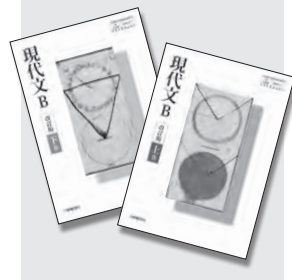
「漢文にもこんな話があったんですね」と、特に女子に人気が高い。中には「これ、私のことです」と告白する生徒も現れた。彼女は、数学の先生に恋をして、彼の授業がある日にはご飯が食べられなくなり、三キロも痩せたという。「だから、すごく共感できるんです」と話してくれた。漢文を読んで「共感できる」なんて、本当に珍しい。句法も難しくないのです、ぜひ一度授業で扱って頂きたい。



× 現代文B改訂版 上巻・下巻『(現B 32・33)

大井和彦

東京大学教育学部
附属中等教育学校



「ネットワーク上のコミュニケーション」

（江下雅之）を読んで、主張と論拠の示し方を学ぼう

「ネットワーク上のコミュニケーション」は、デジタルネイティブ世代の生徒にとって、身近な中にも新たな視点を論理的な構成によつて提示している文章と言える。具体的には、対人コミュニケーションの前提条件とネットワーク上のコミュニケーションの過程を四つの意味段落にそれぞれ根拠を伴わせて論じている。この点が、高校三年生にとっては、これまでのSNS等を通じたやりとりの生活の振り返りを深めたり、卒業後の社会的関係性への客観的な対応に資する思考を促すことができる。と考えられる。

そこで、この文章を深く理解することを目指す上で、

ンについて、具体的な想定をしながら議論し、小論文の形でまとめさせる中で、論理のメタ認知を促したい。

〔授業案 6時間扱い〕

第1時 導入・第一意味段落読解（「実時間の共有」観点）

第2時 第二意味段落(対面コミュニケーションの特質)

および第三意味段落（自己循環過程と感情増幅）読解

第3時 第四意味段落（ネットワーク上対面状況の理解）

読解および全体構成理解の再整理



『現代文B 改訂版 下巻』(現B 330) p.143

文章中の主張を支える根拠を厳密に検討し、内容を解釈し、筆者の意図と文章における構成・論理展開・表現との関係を見つめることで、多角的な視点から適切な根拠を揃えて主張をする形としての書くことの営みへ繋がった。(B読むこと)(1)ウ、エおよびA書くこと(1)イ、エ、カ)。

例えば、第一意味段落のマレービアンの実験結果について、筆者は「数字は近似的な意味しか持たない」などといった冷静な批評を述べつつ引用している。また、第三意味段落では、「ネットワーク上での実時間の非共有から一種のハウリング現象が発生する」と論じている一方で、対面状況になれば解決するわけではないと反論も考えているように思われる。文章中のこのような箇所を吟味していきながら、最終的に日常のコミュニケーション

第4時 コミュニケーションの具体的な課題の議論

第5時 議論を踏まえての小論文

第6時 小論文としての内容・構成等の相互批評

文学国語 比較読みをとおして、「こころ」(夏目漱石)

についての理解を深めよう

「こころ」は「明治の精神」「時勢遅れ」といったワードに代表される、近代における個人と社会との問題を取り上げた定番教材である。この小説の読解は、同時期の講演記録である「現代日本の開化」「私の個人主義」を併せて読む単元構成がなされることもある。この取り合わせによって、漱石という大作家を我々と同じく一人の人間として作家論的・時代論的アプローチから考察していくことができる。ここでは、「こころ」の作品時代の社会情勢を分析することで解釈を深める補助教材的扱いとして、『である』ことと『する』こととの取り合わせを提案したい（Ｂ読むこと（１）オ、カ、キ）。「『である』ことと『する』こと」は、前近代から近代にかけての急激な社会的価値変動を「である」と「する」という二つの型で見事に分析した定番教材である。



「コミュニケーションから見た日本」は二つの統計資料を示しつつ、移りゆく社会の情勢について論じた教材です。「論理国語」では、根拠や論拠に対する十全な吟味が指導内容として示されており（↓指導要領A書くこと（1）イ、エ、B読むこと（1）ウ）、この指導内容をふまえて、本教材では次のような二つの課題を提示したいと思います。

一つの課題は示されたデータについてです。例えば、一九三ページの「社会的孤立」を扱ったデータは筆者自身が「こうした主観的な領域に関する国際比較はそれ自体きわめて微妙な性格のもの（同ページ）」と断るとおり、「孤立」という感覚には個人差があることに注意を要します。本文における「孤立」の意味を精確に捉えるにあ

論理国語「コミュニケーションから見た日本」（広井良典）を
読んで、根拠や論拠を吟味しよう

「論理国語」「文学国語」の 授業イメージ②

ながたさとみ
永田里美
明星大学准教授



大修館教科書でできる、新課程への準備！ ×「精選現代文B 新訂版」（現B 331）



「現代文B 改訂版 上巻」（現B 329）p.134



「現代文B 改訂版 上巻」（現B 329）p.197

ていくことと世間を渡っていくこととの間で悩み続けている。世間の中で定められた通りに生きていけば楽ではあるが、自分らしくは生きられない。自己を尊重すれば、世間の中で保障される安心は得られない。例えば、それらが代表される表現である「自由と独立と己に充ちた」時代性と「その犠牲としての淋しみ」について、「to be」と「to do」のバランスの観点を踏まえて読むことで、現代を生きる我々の課題との共通性と差異性として考察していくことができるだろう。そこに「前近代」「過近代」の観点から「先生」を初めとした登場人物の分析も加えることができる。また、各教材の主題・論点の比較から、

文学的な文章の特徴について考察していくことも考えられる（知識及び技能（1）ウ）。

〔授業案 16時間扱い〕

第1～4時 「『である』ことと『する』こと」読解（近代の「である」から「する」論理・価値への推移の理解）

第5～14時 「『ころ』読解（「先生」「K」の内面の動きを『である』ことと『する』こと」で学んだ観点から分析）

第15～16時 近代と現代との共通性と差異性について、生徒の生活に引きつけて議論する



「精選現代文B 新訂版」（現B 331）p.193

たつては「精選現代文B」のコラム「思考と表現3『社会を切り取る視点』（五七ページ）」をたどることにより多角的な分析を深めることができます。

二つめの課題は所見が述べられているのみで本文中にデータが示されていないものについてです。例えば、



『精選現代文B 新訂版』(現B 331) p.57

『ローカルなもの』への関心(二〇〇ページ)の表情はどうなのでしょう。調査にあたっては『精選現代文B』所収の「豊かな言語活動のために①『主張の吟味』(二二六―二二九ページ)を参考にすることができま

【授業案 6時間扱い】

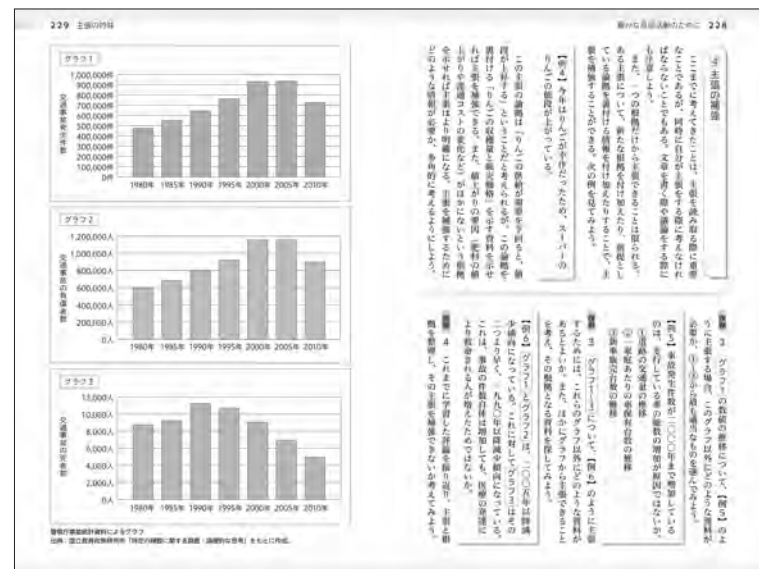
- 第1時 導入・本文の読解(1) 社会的孤立について
第2時 本文の読解(2) 農村型コミュニティと都市型コミュニティについて
第3時 本文の読解(3) 地域密着型のコミュニティについて

第4時 本文の論拠について検討を行う
第5時 調査をもとに、自分の考えを書く
第6時 相互批評の後、振り返りを行う
『精選現代文B』は論理に対する学びを深めるコラムが豊富に掲載されていますので、資料として繰り返し活用することによって知識・技能が定着することと思います。

文学国語「山椒魚」(井伏鱒二)の脚本化を通して、作品世界への理解を深めよう

「山椒魚」は短いストーリーの中で山椒魚の心理の変化が読み取れる作品であり、作者が長い歳月をかけて筆を加えた傑作の一つです。教室で登場人物(生物)の言動を詳細に読み取った先に、どのような活動を通すことで学びを深めることができるでしょうか。

「山椒魚」は岩屋という閉じ込められた空間で、頭でかちの山椒魚が小えび、蛙との出会いの中で心情を変化させていきます。この閉じ込められた空間で展開するストーリーは密室劇ともいえます。そこで「山椒魚」を脚本化(↓指導要領A書くこと(2)イ、B読むこと(2)ウ)することによって、擬人化された小動物の思いや言葉をそれぞれの視点によって丁寧を読み直すことができるの



『精選現代文B 新訂版』(現B 331) pp.228-229

ではないかと考えます。寓意性の高い小説ですから、閉ざされた場は岩屋ではなく現代の社会に置き換えることも可能です。また脚本化にあたり「思いぞ屈し」のような古典的な表現や「悲しみますには十分であった」のような英文直訳的な表現も、諧謔味を与えるものとして効果的な使用を促したいところです(↓指導要領「知識及び技能」(1)エ)。脚本を朗読する際、時間がない場合は最終場面の「今でもべつにお前のことを怒ってはいないんだ。」に焦点化した発表を行うのも良いと思います。

【授業案 6時間扱い】

- 第1時 導入・概説・本文の読解(1)
第2時 本文の読解(2) 外の世界の小動物の描写から山椒魚の心情を理解する
第3時 本文の読解(3) 山椒魚と蛙との関係を理解する
第4時 グループを作り、脚本化に向けて登場人物の言動をカードでまとめなおし、視点を変えて解釈する
第5時 脚本を作成し、効果的な朗読を考える
第6時 朗読の発表後、振り返りを行う
探究的な課題として「山椒魚」の原作となつた「幽閉」や影響を受けたとされるチェーホフの「賭」の読み比べを勧めるのも良いでしょう。



「論理国語」「文学国語」の授業イメージ③

いしづか おさむ
石塚 修
筑波大学教授



論理国語 「ウサギの耳はなぜ長い？」(上田恵介)を
読んで、具体と抽象について理解しよう

この文章は、さまざまな動物の例示により、自己の論理を補強する書き方をしている。「共進化とは」という小見出しがあるけれども、その定義は段落全体を読まな



『新編現代文B 改訂版』(現B 332) p.83

いと導けない。まず前提の例示がなされ、そこから「共進化」というキーワードが導かれる。そして、より詳しいウサギの例が次に示される。そして、最後に「共進化」という用語のイメージによる学術的陥穽を指摘する。

論理的な文章が書けない生徒は、このような具体化と抽象化との往復が円滑にできない場合が多い。「情報を重要度や抽象度によって階層化して整理する」ことができていないからである。生徒の進路選択に応じた分野のキーワードを選定させ、その具体例を身近なものからはじめ、やがて国際社会からも見つけて書けるようにしたい。

論理国語 「和の思想、間の文化」(長谷川權)を
読んで、論理構成を学ぼう

この文章は「水の東西」の二項対立構造と同様に、論理の構成を学ぶのに適切である。筆者は「和」という言

葉を主張の中心に置き、「間」をその成立の前提にしている。その主旨の明晰さが保たれつつ、最後まで論理が進んでいるかを確認することが大切である。例示が多

いたために、枝葉末節の例示に惑わされ、その確認ですまてはならない。日本文化論を展開する場合、どのような観点から独自性を見出すかを学ばせるのもよいだろう。

または、「間」が十分にあることこそが共存の前提であるとするが、そうした「間」のある限り、ほんとうに親密になれるだろうかという反論も出てくる。「土台」としては必要だが、その後の関係性を深めるには「間近に」なる必要がある。そうした用語のもつまジックを見抜き、反論の想定を作る学習もできる。

文学国語 第七単元「ユーモアとゆとり」をもとに、
「楽しい文章」をテーマにしたアンソロジーを作ろう

とかくアンソロジーというと詩歌や古典の名文にとどまりがちであるが、より広くして、楽しい文章を集めることも「文学国語」では視野に入れるべきであろう。ここで取りあげている「ももこのいきもの図鑑」などは、これまでのような読解中心の学習では扱いにくい文章であったかもしれないが、「楽しめる文章」という視点か

文学国語 「どんな大人になったかったか？」

(大江健三郎)を読んで、作品集を作ろう

この文章は、「大人の言い方」にまどわされがちな青少年たちに「子供は子供なりに、人の内部にあるものについてかぎつける」ことを示し、「自分の子供の時の人間の見方には、正しいところがあった」ことを伝えている。

まずは、この文章を読むことを通して「大人になる」ことについて考えたうえで、それをテーマとして共同作品を作成させる学習が可能である。「グループで同じ題材を書き継いで一つの作品を作」ってもよいかもしれないし、誰もがかならず通過していく「大人になる」というテーマについて、身近な人からの聞き書きをして、編集させてもよいだろう。それらを生徒同士で共有することは、自らの将来を「想像」するという「文学国語」ならではの学習につながるはずである。



「古典探究」の授業イメージ

いしなべゆうだい
石鍋雄大

東京都立大泉高等学校
附属中学校



■はじめに

新課程のイメージが徐々に具体化されていく中で、漠然とした不安がある先生方もいらっしゃるかと思います。しかし私は、先生方が蓄積されてきた多くの素晴らしい実践は、それを基にすることで新課程に対応可能な授業になると考えています。たとえば、「山月記」と「人虎伝」の比較読みなどは多くの先生が行っている授業の一つかと思いますが、この比較読みという方法は、「古典探究」でも行いやすいのではないのでしょうか。

たとえば、『新編古典B 改訂版』の「枕中記」を使つた以下のような授業です。

古典探究「枕中記」と「黄粱夢」の比較読みで、内容についての理解を深めよう

「黄粱夢」は、「枕中記」を元に芥川龍之介が創作した作品です。大きな違いはその最終場面における、夢から醒めた後の盧生の態度です。この場面の比較を通して、生徒が自分の考えを相対化することができると考えました。

第1時 「枕中記」の「人生之適、亦如是矣。」までを読み、その後の盧生の行動を考える。

第2時 「枕中記」と「黄粱夢」の最終場面を比較読みする。

第3時 最終場面の違いと作者の意図について考え、評価する。

「枕中記」では、夢の中で一生を体験した盧生は、立

身出世を望む自らの欲深さを反省しますが、「黄粱夢」では、人生は夢だからこそ精一杯生きたいと述べます。これらの違いは、そのまま作者の人生観と繋がってくるのではないのでしょうか。二つの内容や表現の違いについて全員で確認するだけでなく、それらを選択した作者の意図や考えを評価することで、自分自身と古典を関係づけることができます。また、生徒の学習状況に応じて、「黄粱夢」の作者芥川龍之介が生きた近代という時代から、近代的自我という視点を絡めて学習することや、能「邯鄲」を視聴し、三つの作品を比較することで、さらに考えを深めることもできると考えます。

古典探究 テーマを設定して、「項王の最期」と「木曾の最期」とを比較読みしよう

同様に、教科書教材の比較読みとして古文と漢文を組み合わせてみようと思います。「項王の最期」は「古典B」掲載の教材であり、「木曾の最期」は「国語総合」掲載の教材です。以下の案は、一年次に「木曾の最期」を学んだ二年生を想定しています。二つの教材の共通点と相違点を確認しながら、なぜこれら「滅び」をテーマとした作品が人々に読み継がれているのかを考えていきます。

第〇時 「木曾の最期」の本文と現代語訳を配布し、内容を確認する。

第1時 「項王の最期」を読解する。

第2時 「木曾の最期」と「項王の最期」を比較読みし、

共通点と相違点を話し合う。

第3時 「滅び」をテーマとした作品が読み継がれている理由を考える。

二つの作品の共通点としては、両者とも「猛きもの」といには滅びぬ」の典型であることが挙げられます。加えて、戦いの中で大勢に追われ、最後の戦いの前にそれまで行動をともしていた女性（巴御前・虞美人）と別れることや、死に際して、登場人物（兼平・亭長）とそれぞれ会話をする点が共通しています。

しかし、項羽が天命に従って死ぬために戦場に赴くのに対し、義仲は乳母子である兼平の言葉に従って自害しようとする点は大きく異なっています。義仲はもともと項羽と同じく敵と戦って死ぬつもりでした。それは、「汝（兼平）」と「所で死なんと思ふためなり」という言葉から分かるように、兼平と共に討ち死にするためでした。しかし、他ならぬ兼平に「無名の人間に義仲が討たれるのが悔しい」と言われたために、義仲は自害を決断するのです。結果として、討ち取られることにはなりますが、

自害の決断をさせた乳母子という存在は非常に重要です。その理解抜きには十分作品を味わったとはいえないでしょう。

以上のような、勇猛果敢に敵数百人を倒し自害した項羽と、同じように敵地へ向かおうとするも、乳母子の言葉に動かされ一人自害を決意し、空しく殺されてしまう義仲の描かれ方を比較することは、同じ「滅び」でも全く違うことに気付くこととなるのではないのでしょうか。『平家物語』は単に「盛者必衰」の物語であると単純化して理解されがちですが、『史記』と比較することで違いが浮かびあがってきます。これらの違いから日本の古典の特徴について考えるときにも、この二つの作品が現在まで読み継がれている意味を考えさせることができるのではないのでしょうか。

古典探究 『枕草子』を参考にして、 文語で随筆を書いてみよう

次に、古典と現在とのつながりを感じる授業として、『枕草子』を元に文語で随筆を書く授業を考えました。「古典探究」は「読むこと」の領域に対応する教科であるため、「読みを深めるために書く」という意識のもと、授

業を構成しています。授業の流れは以下のとおりです。
第1時 「うれしいもの」をテーマとして短い随筆を書き交流する。

第2時 自分たちの作品と比較しながら「うれしいもの」を読む。

第3時 「うれしきもの」を参考に、自分の随筆を文語で書く。

古典の教材を扱う時には、生徒たちが自分と古典とを断絶したものとして捉えず、自分たちに関係のあることだと実感することが大切です。古典が数百年という時代の風雪に耐えられたのは、人間として不易なものがそこにあるからで、それは令和を生きる生徒たちの標ともなるはずで、古典の作者や登場人物の考え方を理解するとともに、それを元に思考し、考えを深めていくことで、古典を発展させていくことが可能となるのではないのでしょうか。

さて、この授業では第一次にまず随筆を書き、交流することを想定しています。これは、まず現代のクラスメイトたちとの交流の中で考えを広げることを意図しています。第二次の「うれしきもの」を読む際には、自分たちの考えた随筆を比較の対象とすることで、時代を隔てた人とも現代の人と同じように対話ができると考えま

す。また、最終的に文語で随筆を書くという目標をもって読むことで、そこに書いてある内容だけでなく、その表現のされ方や構成についても意識を向けることができるのではないのでしょうか。中学校の教科書では「春はあけぼの」を通じて、四季について考えるような学習が既に示されています。高等学校の学習としては、内容だけでなく、文法事項などの知識や表現・構成に着目した学習も必要です。体言止めによる余韻や係り結びによる強調などは生徒にも真似しやすいのではないのでしょうか。

■おわりに

今回の授業案では、まずは教科書に掲載されている教材だけでできる授業を考えましたが、生徒の興味・関心に応じて教科書外の古典へ広がっていくことが考えられます。たとえば、『精選古典B 改訂版』の「古典の『夢』」について調べる」にあるように、古典に出てくるモチーフの中からテーマを決めて調べるという学習活動も想定されます。自由に個人で探究していくことも可能でしょうし、個人で学習することが難しい場合には、調べる作品をグループで分担することなども考えられます。他にも、教師が参考となる資料を示しそこから発展させることも可能です。「夢」がテーマであれば、西郷信綱『古

代人と夢』（平凡社、一九九三）、三田村雅子・河添房江編『夢と物の怪の源氏物語』（翰林書房、二〇一〇）などが参考になるでしょう。

また、授業を考えるにあたっては、所属校が中高一貫校である立場から、中学校についても少しだけ触れました。高等学校として中学校と差別化すべき点として、読解に資する知識をしっかり教える必要性を感じます。授業のすべてを活動型にする必要はなく、生徒が知識を適切に用いながら、主体的に古典を探究していくことができるよう、講義型の授業をバランスよく組み合わせることも大切なのではないのでしょうか。古文の楽しさ、奥深さを生徒と教師が共に感じることができるような授業が「古典探究」ではできないかと期待しています。



『精選古典B 改訂版』（古B 341）p.80

新課程

選択科目履修パターンについて

編集部

大修館「WEB国語教室」 「新課程国語 履修パターンシミュレーション」より

パターン	履修パターンの概要・ねらい	国語合計単位数
A	情緒を育む教科として「文学国語」を重視	文系…17 理系…15
B	「文学国語」は選択扱いで「論理国語」「古典探究」を優先	文系…13～17 理系…13
C	2学年で「文学国語」を全員履修、文系は「古典探究」、理系は「論理国語」重視	文系…16 理系…13
D	2学年で「論理国語」を優先、「文学国語」「古典探究」は減単位して3学年で	15
E	減単位を活用して「国語表現」以外の3科目をバランスよく履修	文系…15 理系…13
F	「論理国語」「文学国語」を重視、古典は其中で扱う	12
G	「国語表現」を選択科目として設置	12～16
H	進学コースと就職コースに分かれるパターン	進学コース…14 就職コース…12
I	選択科目として「国語表現」を設置し、実社会で活用できる国語力を育成	8
J	進路多様校で生徒のニーズに応じた科目設定	8

新しい学習指導要領では、「現代の国語」「言語文化」が必修科目（各2単位）となり、選択科目は「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」の4科目（各4単位）となります。「論理国語」「文学国語」という資質・能力による新しい区分のしかたと、いずれも4単位という単位数の関係から、「どの科目をどのように設定したらよいか」といった声も聞かれます。

そこで、編集部では、全国の学校より小社編集部・営業担当者に寄せられた、「現時点でこのようなカリキュラムを検討中」というプランをベースとして、「新課程国語 履修パターンシミュレーション」を作成いたしました。2年生から文系と理系に分かれるパターン、「国語表現」を優先するパターンなど、A～Jの多様なプランをご提示しています。

左の二次元コードからスマートフォン、タブレット等でご覧いただけます。試案としてご参考にしていただき、各学校の実態に応じたカリキュラム編成の一助としていただければ幸いです。

WEB国語教室

「履修パターンシミュレーション」は、こちらから↓



展望 これからの国語教育

ことばのセンスを育てる国語教育

いまい
今井 むつみ

慶應義塾大学教授。専門は認知科学、特に認知心理学、発達心理学、言語心理学。著書に『ことばと思考』（岩波新書）『ことばの発達謎を解く』（ちくまプリマー新書）『ことばを覚える仕組み』（ちくま学芸文庫）など。

■「ことばのセンス」とは？

「あの人はファッションのセンスいいね」とか「彼は独特のセンスを持っている」と言う。「センスがよい」は最大級の誉め言葉だと個人的には思っている。この日本語の「センス」という言葉は、「感覚」と訳されることが多いのだが、いわゆる暑い冷たいといった身体感覚や、幸せなどの感情の感じ方とはちよっと意味がちがいで、言語化することが難しい、暗黙の知識の塊のようなものだ。「カン」に近い。

ことばの使い方にも「センス」が表れる。言語はコミュニケーションの道具ではあるが、ただおしゃべりをするためにことばがあるのではない。ことばは思考の道具であり、自分の思考を表現する大事な武器である。今、言語能力の四技能（話す、聞く、書く、読む）をバランスよく育てる

ことが大事と言われているが、思考を深めるために特に大事なものは「書く」である。

■「理解テスト」と「産出テスト」

認知心理学では、知識を測るときに、測定の指標が「理解」なのか「産出」なのかを明記する。選択肢の中から正しいものを選ぶテストは「理解テスト」、質問に対して答えを書くテストは「産出テスト」である。

この二つが区別される理由は、測っている知識や認知処理の深さが大きく異なるからである。理解テストでは、答えは選択肢の中に示されているので、記憶からの想起は必要ない。選択肢を比べて明らかにちがうと思われる選択肢から順番に消去することもできるし、紛らわしの選択肢が

ヒントになることもあるので、かなり浅いレベルの知識でも正解できることが多々ある。対して産出テストは、自分で想起をしなければならいし、多くの場合、出題者が意図する概念を知っているか否かだけではなく、言語を運用するために必要な、他のさまざまな要素を組み合わせないと答えを書くことができない。

私は小学生のことばの力を測るために、破る、割る、裂く、ちぎる、など類義語を集め、その行為を絵で示して、「新聞紙を」「います。」「おせんべいを」「います。」などの文の中にもっとも適切な動詞を書いてもらうという産出テストを作成し、実施した。どれも日常的な動詞なので、小学生は当然知っている。しかし、このテストでは結構間違える。ターゲットとなるのはみな似た意味の動詞なので、一連の類義語の意味がそれぞれ違うのか、どのように使い分けされるのかをきちんと理解していないと正しい動詞を想起することができないからである。また、自動詞と他動詞を混同したり、低学年だと促音の表記を間違えて「おせんべいを「わって」います。」と書くべきところを「われて」／「わて」などと書いてしまったりする誤答も目立った。

この結果は、ことばを「知っている」と「使える」ことは同じではないこと、定義的な意味を与えて暗記して

も正しく運用できるようにはならないことをあらためて教えてくれる。「的確に使う」ためには単語や文法、表記について単に「知識をもっている」だけでなく、それらが統合され、状況、文脈に応じて自由に組み合わせ可能な状態になっている必要があるのである。

■AIに「ことばのセンス」はあるか？

人の言語は、同じ内容のことも、多様な表現で言い表すことができるという特徴をもっている。

昨年、「名物ロボット、半年で『クビ』 大量失業の変な理由」という記事を新聞で読み、非常に興味深かった。長崎県のテーマパーク内で、「ロボットが初めて従業員として働いたホテル」として話題になったホテルの話である。フロントでの客との応対は限られているから、「朝食は何時？」「チェックアウトの時間は？」などの質問の定型文とその返答例をロボットに与えておき、文の変形パターンなどを学習する多少の学習機能を作りこんでおけば、ロボットは客に聞かれたことを認識し、応答できると考えたのだろう。

実際、客の質問の内容は、想定内のものだった。しかし、そのような質問でも、客一人ひとりがみな別の表現をするので、ロボットはお手上げになってしまったそうである。

この記事は、同じ内容を伝えるにも、言語の表現のしかたにはほぼ無限のパリエーションがあるということ、単に定型の表現を暗記しても役に立たないことをあらためて気づかせてくれた。

これをさらに進めて考えれば、「ことばのセンス」というのは、そのパリエーションの中で、もっともその状況に適した言語表現ができるということと考えてよいかもしれない。似た概念に対して、人間は、繊細な意味の違いやニュアンスによって同じような概念を細かく言い分けることができるように、数多くの単語を創造し、複雑で豊かな言語体系をつくってきた。同じ内容のことを、単語の意味の知識だけでなく、構文や形態素の知識、語用の知識など様々な要素の知識を自在に組み合わせ、状況や自分の立場、伝える相手によって、実に多様に表現できる。それが人間の言語である。

AIは要素データを膨大にもっているても人間のように要素を自在に組み合わせることができない。だから多様で自在な言語表現の理解も産出もできないのである。

■入試改革と「記述式」

入試改革で記述式問題のことがずいぶん批判され、実施が延期されることになった。その最大の理由は、短期間に、

採点者の間でも受験生の自己採点ともぶれずに客観的に採点することが難しいという懸念である。

今回の問題は、国語であれ、外国語であれ、表現の無限の多様性をもつという言語の性質と、その運用能力を誰がしても同じ評価ができるような客観的なテストで測るという入試の大前提との矛盾を露呈したように思う。国語の試験で記述式を採用するのなら、この矛盾をどのように解決するかをまず考えるべきである。

しかし、本来、学力は記述式で測るべきものなのである。国語も英語も、いくら頻度が低く、特別な文脈でしか使われない単語を知っている、それを使って明確に意味が伝わる文章が書けなければ、それこそ「意味がない」。

私の認識では、教育改革の一環として、入試も断片的な知識を吐き出すだけのテストではなく、様々な知識を統合して思考し、言語で表現することができる総合的な能力を測るべきだという理念が記述式テスト導入の背後にあったはずである。この理念は認知科学が明らかにしてきた知識と思考の性質に鑑み、正鵠を得たものである。それだけに、今回の事態は残念でならない。

記述式試験をセンター入試で取り入れることの是非はともかく、すべての教科において、知識を統合し、思考し、言語表現する資質を育てることが教育の最終目標になるべ

きである。

■「ことばのセンス」を磨く国語教育を

スマホやパソコンでテキストを打っている、ことば力がどんどん退化していく気がする。ある単語を打つと、次の単語が予測され、タップするだけで定型文が書けてしまう。これでは深い認知処理は起こるはずもない。このような現状で、国語は「ことばのセンス」を日本国民が身につける最後の砦と言わなければならない。では、この「センス」を磨くため、国語教育は何ができるのだろうか。

良質の文章を読んだり聞いたりすることが必要なことは当然であり、そのために国語の教科書は良質かつ多様なジャンルの文章をバランスよく豊富に掲載してほしい。読書離れが進んでいる中で、国語教科書の担う役割はますます重要である。「ことばのセンス」を身につけるためには、文学、評論、随筆など多様な文章のサンプルを深く読み込むことが欠かせないからである。しかし、読むだけではセンスは十分に磨かれない。

これは料理を引き合いに考えるとわかりやすい。料理も「センス」が大事である。料理はいくらレシピを読んでも、実際に作ってみなければできるようにならない。毎日料理をつくれれば、それなりに、「切る」「煮る」「焼く」などの要

素スキルは習得するだろう。しかし「センス」がなければ、レシピをアレンジして、自分独自の味を作ったり、自分で新しい料理を考え出したりすることはできない。ただ作って食べるだけでも料理のセンスは身につかない。作って味見をし、先生や先輩の作った料理と比較し、分析する。そういう修業を長年積み重ねて徐々に「センス」が習得される。ことばのセンスも同じだ。テキストに知らない単語や表現があれば、辞書でその意味を調べる。様々な文を作ってみる。他にもっとよい表現ができないか考える。類義の単語や表現でも文を作る。いくつかの文を作り、比較してどの文がもっともその状況で効果的かを吟味する。認知科学では、このような比較の過程が深い認知処理と新たな洞察をもたらすことを明らかにしている。このような、ことばの意味を調べ、使い、多様な表現を比較する経験の積み重ねで、ことばのセンスは徐々に、しかし確実に育っていくはずである。

もちろん高いレベルの「ことばのセンス」を高校生までに習得することを目標とすることは現実的ではない。これは一生向上し続ける類の能力である。しかし、国語教育は生徒がことばのセンスを自分で育て、ことばの宇宙を自分で探究していくきっかけと手立てを与える機会であってほしい。

青山あり！

中国祠墓紀行

「WEB国語教室」運動

第二回 屈原墓（湖南省汨羅市）

文と写真

平井 徹



◆DATA

人物：屈原（前343？-前278？）。戦国時代末の楚の高官、詩人。

墓所：湖南省汨羅市屈原祠鎮汨羅山（列女嶺）、市街から東北9km

アクセス：東京 ▶ 上海（経由便）8h ▶ 長沙 ▶ 汨羅 2h

あわせて行きたい：岳陽楼（湖南省岳陽市）、屈原故里（湖北省宜昌〈ぎしやう〉市秭帰〈しき〉県）

屈原（前343？-前278？）。戦国時代末期、楚国の高官、詩人。名は平、原は字。中国南方文学の祖で、浪漫的な詩集である『楚辞』中最大の作家。中国文学史の劈頭を飾る固有名詞（人名）で、「憂国詩人」と称される。

屈原は放浪の末、汨羅の淵に身を投じて生涯を閉じた。その舞台となった汨羅市は岳陽市の下部に属する県級市で、汨水と羅水の両川が合流して汨羅江となることから名づけられた。「汨」字は、中国でも発音を知る人はそう多くない。余談だが、歌人の塚本邦雄は、辞書を購入する際

に「汨羅」の項を引き、誤記がないかを確かめる基準にしたという。御子息で歴史小説家の塚本青史氏からうかがった話である。

私は二〇〇〇、二〇〇三、二〇一五年の三回現地を訪れているが、留学中に訪れた初回が、彼の命日とされる旧暦五月五日の直前であったことから、やはり最も印象深い。湖南省の省都長沙市から長距離バスに乗り、北へ八十里ほどで汨羅市に到着（実際は、岳陽市から南下するほうが距離的に近く、高速道路の便も良い）。田舎のこととて地

令和3年度用 大修館書店 国語教科書のご案内 多様な現場に対応した豊富なラインナップ



古典B 改訂版 古文編・漢文編
(古B339・340)



現代文B 改訂版 上巻・下巻
(現B329・330)



国語総合 改訂版 現代文編・古典編
(国総344・345)

分冊シリーズ

4単位
あわせて

精選シリーズ

4単位

新編シリーズ

4単位

2単位・3単位の選択科目



精選 古典B 改訂版
(古B341)



精選 現代文B 新訂版
(現B331)



精選 国語総合 新訂版
(国総346)



新編 古典B 改訂版
(古B342)



新編 現代文B 改訂版
(現B332)



新編 国語総合 改訂版
(国総347)



2単位
古典A 物語選 改訂版
(古A315)



2単位
現代文A 改訂版
(現A308)



3単位
国語表現 改訂版
(国表307)

図すら入手できず、文化局に電話を入れて車の手配を頼んだら、翌朝黒塗りの高級車が迎えに来てびっくりした。地元民の生活用の粗末なフェリーで汨羅江を渡った際には、川岸を裸足でジャブジャブ歩くはめとなり、「滄浪の水濁らば、以て吾が足を濯ふべし」(屈原「漁父辞」)を地で体験した。土手には緑を覆いつくすほどの白い蝶が群れていた。



▲春の汨羅江を渡る(2000年撮影)



▲「三閭大夫」は「漁父辞」にのみ見える屈原の官名(2015年撮影)

屈原を祀る「屈子祠」は市北西部の玉笥山にある。漢代の創建と伝わるが、現存するのは清の乾隆年間の重修で、白亜の壁面が美しい。内部には屈原の位牌を安置するほか、隣接地には、濯纓橋、独醒亭、屈原碑林などを附設する。屈原墓は市の北東部、玉笥山から五キロほどの列女嶺にある。屈原生前の官位を記した「故楚三閭大夫之墓」は清末同治六年(一九〇二)の石碑。附近にはほぼ同じ大きさの墳丘が十二あり、一括して「汨羅山戦国墓」と称されており、屈原の墓だというのは、あくまで伝承に過ぎないようだ。墓の上からは一面に広がる茶畑が遠望できたが、三度目に訪れた際には整地し囲われ、登れなくなっていた。



▲屈原を祀る屈子祠(2015年撮影)

国語総合

4単位

国語総合 改訂版 現代文編・古典編



国総 344・国総345

A5判

326ページ/238ページ

精選国語総合 新訂版



国総 346

A5判

458ページ

新編国語総合 改訂版



国総 347

A5判

408ページ

特色1 組み合わせ自在の完全ジャンル別

全体を「評論」「文学」に分け、さらにテーマごとに単元を構成した**完全ジャンル別**。

特色2 主要テーマを押さえ、評論教材を充実

評論単元を2単元増補、**教材数は14本から18本に**。

特色3 評論・小説をより深く理解するコラム

各単元末に、「コラム」「**評論の視点**」「**文学の視点**」を計11本設置。

特色4 入試に対応した単元増補

大学入試の傾向も意識し、古文編に**評論単元を増補**。古文編の説話教材、漢文編の文章教材も増補。

特色5 図録・資料の充実

巻頭には**ビジュアルな図録**、巻末には文学史年表や文法事項などの資料をまとめ、機能的な構成に。



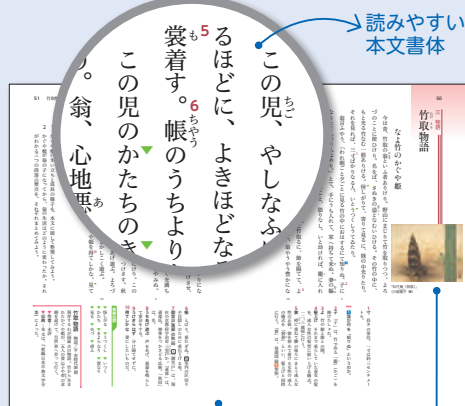
●おまえはやって来た（随想）

人間のコミュニケーションの本質とは？
アフリカでの経験から
ある気づきを得る、感動的な随想。



●挑戦

朗読 CD では、
茂木先生ご自身が
本文を朗読！



読みやすい
本文書体

カラー図版も
豊富に収録

使いやすい
見開き構成



●言語活動「対話から始めよう」



●古典の魅力

古典の価値やおもしろさをやさしく
解説する文章を多数収録。
小説、詩、絵画やマンガへの翻案など、
表現活動に役立てることも可能。



●ワンダフル・プラネット！（前見返しより）

特色1 生徒の好奇心を刺激する新鮮な教材群

重松清、齋藤孝、川上弘美、福岡伸一、村上春樹など、豪華執筆陣による、新鮮で興味をそそる教材ラインナップ。

特色2 古典のおもしろさをわかりやすく伝える

古典の世界へ誘い込まれるような**古典の入門単元**を工夫。「古典の魅力」（野村萬葉、「なんてステキな光景なの！」（山口仲美）、「漢文のすすめ」（加藤徹）など、古典の魅力を伝える読み物も充実。

特色3 実践的で役に立つ付録と資料

「**原稿用紙の使い方**」や「**用字用語一覧**」を新設。「**重要古語一覧**」「**漢文訓読のまとめ**」「**古文参考図録**」など資料も充実。

現代文B 4単位

現代文B 改訂版 上巻・下巻



現B 329・330
A5判
296ページ/272ページ

特色1 完全ジャンル別、圧倒的な質・量

上・下巻に分かれた分冊型の形態と、それぞれが大きく「評論」と「文学」に二分される完全ジャンル別の構成。

特色2 入試頻出のテーマを押さえた評論教材

評論教材数を24本から28本に増補。下巻には「近代と文化」単元を新設。

特色3 教材理解に役立つ言語活動・コラム

上巻「表現編」では言語活動として「小論文入門」を新設。単元テーマの理解に役立ち、重要キーワードも習得できるコラム「評論の視点」「文学の視点」を計8本設置。

特色4 学習に役立つ付録などの充実

「近現代評論史」「キーワード解説」を新設。

精選現代文B 新訂版



現B 331
A5判
472ページ

特色1 新しい学力観を見据えた教材化

「学習のポイント」は「内容の理解」「ことばと表現」「語句と漢字」の3コーナーに分け、身につく力をより明確に。キーワードは巻末「キーワード解説」でも詳しく解説。

特色2 「豊かな言語活動のために」新設

言語活動を行う際に参照するページ「豊かな言語活動のために」を新設。

特色3 アクティブ・ラーニングに対応

教材に関連したテーマを掘り下げて解説するコラム「思考と表現」を9本新設。思考力・判断力・表現力を高める「課題」を設定。

特色4 教材の再検討・増補

現代を多角的に考えられるような単元テーマを設定。さまざまなテーマ・形態の文章を学習できるよう配慮。

新編現代文B 改訂版



現B 332
A5判
342ページ

特色1 高校生の「いま」をとらえた新教材

高校生が直面している問題を扱う「情報化時代に生きる」単元を新設。小川洋子、吉本ばなな、又吉直樹など、生徒の心に響く新教材を6本収録。

特色2 わかりやすい教材化の工夫

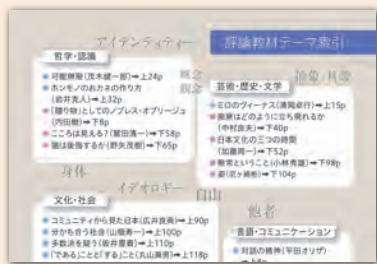
新設の「情報化時代に生きる」単元では、言語活動「テーマを設定して調べた成果をまとめる」を設置。

特色3 読書案内の充実

「読書の窓」「読書の広場」をいっそう充実させ、教科書がそのまま読書への道案内になるよう配慮。

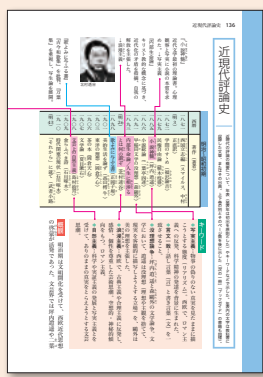


●キーワード解説



●評論教材テーマ索引

単元テーマの理解に役立つコラムは「キーワード解説」とリンク。



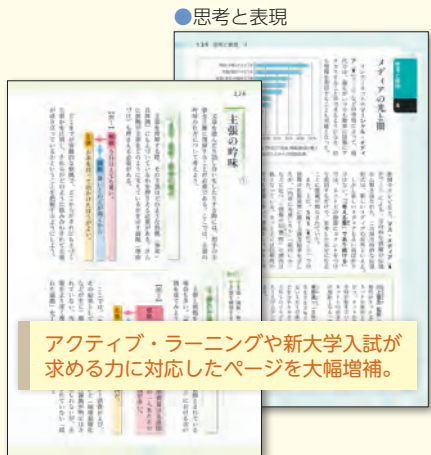
●近現代評論史

評論の変遷と重要キーワードが一望できます。



●実体の美と状況の美

芸術・比較文化論の決定版。日本の美意識を「状況の美」という観点から分析。



アクティブ・ラーニングや新大学入試が求める力に対応したページを大幅増補。

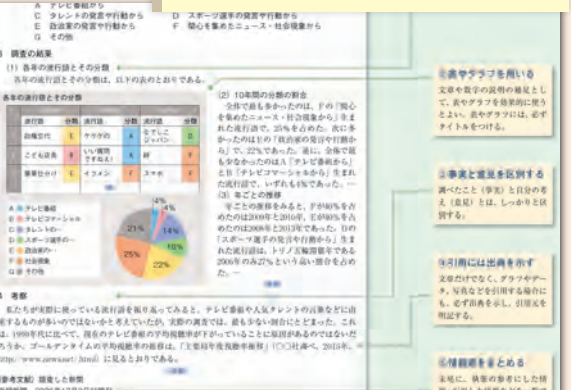
●豊かな言語活動のために



●読書の窓

●読書の広場

新設単元「情報化時代に生きる」では、テーマを決めてレポートを書く活動を設置。課題探究型学習へといざないます。



古典B 4単位

古典B 改訂版 古文編・漢文編



古B 339・340

A5判

312ページ/182ページ

特色1 見やすく使いやすく、紙面を一新

紙面デザインを一新。本文には大きく読みやすい書体を採用。見開き単位を意識した紙面構成で、授業の進行やプリント作成にも配慮。

特色2 生徒の視点に立った教材化

本文理解に役立つ資料を見やすく教材化。脚注は訳語と補足的な情報を(人)地(補)句(法)のマークで区別し、よりわかりやすく。

特色3 理解を深めるコラムを大幅増補

古文の世界を広げるコラム「古文の窓」を2本、「漢文の窓」を4本増補。読解に必要な知識や方法をまとめたコラム「古文を読むために」を2本、「漢文を読むために」を3本新設。

特色4 資料類の配置・構成・内容を充実

図録要素は巻頭に、語句・文法要素は巻末に。古文の世界を俯瞰できる資料を新設。

精選古典B 改訂版



古B 341

A5判

392ページ

特色1 見やすくわかりやすく、紙面と教材化を一新

明るく読みやすい紙面デザインに一新。「源氏物語」「大鏡」などには、本文理解に役立つ資料を見やすい形で教材化。

特色2 古典でもアクティブ・ラーニング

読み比べなど教材に即した言語活動のほかに、「古典の『夢』について調べる」など、教材を入り口にした課題探究型の活動も新設。

特色3 古典への理解を深めるコラムを大幅増補

読み物コラム「古文／漢文の窓」、読解に必要な知識や方法をまとめたコラム「古文／漢文を読むために」を大幅に増補・新設。

特色4 資料類の配置・構成・内容を充実

巻頭には「古文の流れ」「主要人物関係図」など古文の世界を俯瞰できる資料を、付録には実用的な資料を新設。

新編古典B 改訂版



古B 342

A5判

366ページ

特色1 古典の世界を広げる教材と教材化

巻頭教材は新たに「安倍晴明と百鬼夜行」を収録。小説・漫画とのコラボレーションで古文の世界に無理なく誘い、さらに言語活動へも発展できる構成。

特色2 古典がビジュアルになる「古典への招待」

各単元の最初に設けた好評の「古典への招待」をさらに増補。漢文編の冒頭単元に、故事成語を入り口にして漢文の世界に誘う「漢文への招待」を新設。

特色3 見るだけで楽しい巻頭と巻末図録

巻頭には、古文の世界を図解するページを新設。巻末図録も、よりビジュアルに刷新。付録「日本のことわざ・慣用語」「故事成語」などの資料類も充実。

『源氏物語』の「巻名インデックス」、その作品の文学史的 위치が概観できる「年代スケール」を新設。



巻名
インデックス

●源氏物語「桐壺（一）」

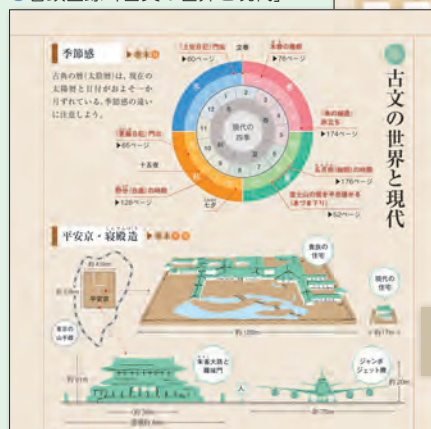
年代
スケール

「古典の『夢』について調べる」
など、教材を入り口にした課題
探究型の活動も新設！

単元ごとに月が満ち欠け！
楽しみながら古典常識もしっかり身につきます。

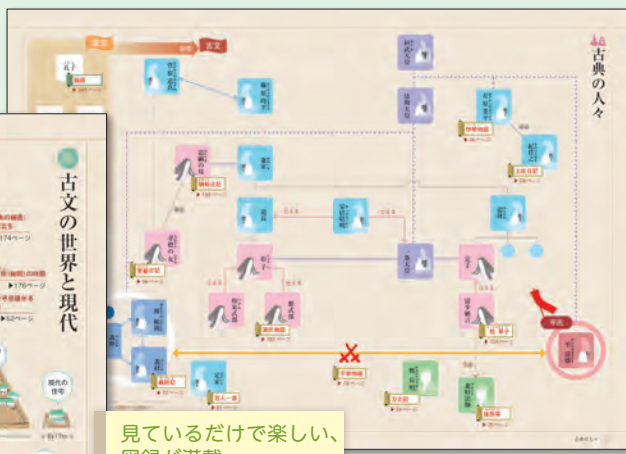
●言語活動「古典の『夢』について調べる」

●巻頭図録「古文の世界と現代」



見ているだけで楽しい、
図録が満載

●巻頭図録「古典の人々」



2単位・3単位の選択科目

国語表現 改訂版

3単位



国表 307
B5判
206ページ

特色1 クイズ形式で楽しく言葉の基本を学ぶ

問題を解きながら言葉の基本や単元の内容を学べる「**実践トレーニング**」を新設し、学習した内容＋αをゲーム感覚で復習。

特色2 データ型小論文も登場！

小論文の書き方を基本から丁寧に解説。新設の「**レッスン4 統計資料を読み取って書く**」で、入試頻出のデータ型小論文を解説。

特色3 アクティブ・ラーニングにも対応

第6単元「**会話・議論・発表**」を強化。巻末資料「**話し合いのいろいろ**」を新設し、「シンク・ペア・シェア」「ワールドカフェ」など、協働学習の手法も解説。

特色4 学習意欲を高める読み物・資料の充実

学習の参考や活動の動機づけとなる文章・資料を集めた「**表現への扉**」に、敬語や手紙に関わる読み物を新掲載。

現代文A 改訂版

2単位



現A 308
A5判
264ページ

特色1 「随想・評論」「小説・詩歌」のテーマ別

教材はジャンル別に2部に分け、さらにテーマごとに分類して構成。評論・小説以外に、「詩・短歌・俳句」も収録。現場の実情に合った教材選択が可能。

特色2 言語文化への理解を深める教材・コラム

我が国の言語文化の特質や、外国の文化との関係について学べる教材を豊富に収録。通知文や法律などの実用的な文章や、身近な話題をとおして言語文化について考えるコラム「**言語文化の窓**」も掲載。

特色3 単元扉・教材・コラムで深まる学び

各単元のはじめに**読書案内**を掲載。単元末の「言語文化の窓」とあわせて、入門から発展まで、スムーズに言語文化への理解を深められる。

古典A 物語選 改訂版

2単位



古A 315
A5判
278ページ

特色1 ジャンル別構成で必要十分な教材を精選

物語作品を中心に、古典学習に必要な基本的な教材を精選。単元構成は**ジャンル別**とし、各学校の実情に応じて教科書活用の幅を広げられる。

特色2 「つながり」を可視化する工夫が満載

古典に対する理解を深め、その深さとおもしろさを実感するために、年表・系図などの図解や「**関連**」「**展開**」コーナーを設置。古典世界のさまざまな「**つながり**」を把握するための工夫を盛り込んだ。

特色3 ビジュアルで楽しい充実の資料・図録

古典学習に欠かせない**資料・図録**は、見やすさと親しみやすさを追求。巻頭には、身近なものに見えることで古典の世界がリアルに体感できる特集ページ「**古典と現代**」を新設。

教室が活発になる授業のアイデア

読むことで「伝え合う力」を高める取組

～プレゼンテーション・CM制作をとおして～

▼教材

「山月記」

中島敦

福岡県立門司学園高等学校

はたのいくこ
波多野郁子

生徒のメディアリテラシーも大きく変容する中、国語科でのICT活用の幅も広がってきました。今回は、「山月記」のCM作品を作成する活動をご紹介します。CMを通し、それぞれの読みを伝え合う活動から、国語科の授業の新しい形が見えてきます。

目的と方法

本校で行った国語に関するアンケートによると、約六割の生徒は国語への興味・関心が高く、読書が好き、文章を読むことに楽しさや面白さを感じているという結果であった。しかし、ほぼ同数の生徒が話し合いや発表を取り入れた授業については、あまり好きではないと答えた。

その理由として「人前で話すことが苦手だから」「人見知りで思うように発言できないから」「思うように自分の意見を伝えられないから」等をあげた生徒が多かった。

そこで、これからの社会を生きる上で特に必要な「伝え合う力」を身につけさせるにはどうすればよいかと考え、文学教材を用いて授業を組み立てることにした。

題材の「山月記」は格調高い漢文調の文体と、虎になった主人公李徴の痛切な語りが読者を小説世界に引き込む作品である。生徒にとっては難解な文体であるが、詩人を目指して家族を顧みず、友人とも切磋琢磨することのなかった孤独な李徴の生き様が、現代に生きる私たちにも通じる点があり、さまざまな角度から切り込むことができる。

方法として、映画の予告編を模したCMを各班（5名程度）

で制作させることにした。小説から読み取った内容から、伝えたいと思うテーマを決め、効果的に伝えるにはどうすればよいか、本文読解と並行して、繰り返し話し合いを行った。内容は基本的には自由な発想でよいが、「山月記」のテーマから離れないことを条件とした。作品は、制作途中でコンセプト等を中間発表し、生徒同士で評価し合いながら少しずつ内容を修正していった。ICT機器については、本校のパソコン教室及び生徒のスマートフォンのアプリを使用した。

取組の手順

- ① 作品を読み、内容に関して読み取った「伝えたいこと」を書く。
〔レポート1〕
- ② 文中の語彙の一つ一つを意識して読み、作者が伝えたいことを理解する。
〔内容理解〕
- ③ 作品を読んで、共感したことや想像したことについて話し合う。
〔意見交換〕
- ④ 伝えたいことをわかりやすくまとめ、CMを制作する。
〔絵コンテ・シナリオ作り→動画制作〕
- ⑤ 伝え合うことをとおして読むことの楽しさや面白さを味わう。（発表会）
〔プレゼンテーション・自己評価・他者評価〕
- ⑥ 作品を学び、自分に置き換えて考えたことについて意見

交換する。

〔レポート2〕

CM作品について

授業では、内容読解と経過報告の後、絵コンテ・シナリオを提出させ、情報を共有しながら制作を進めた。アニメーションやドラマ、映画の予告編のように、伝えたい内容を短い印象的な言葉で表現し、BGMやナレーションをつけて表現した。動画サイトの動画の中から自分たちがイメージするものを参考に作る班、校内や校外でロケを行いスマホで撮影する班等、工夫を凝らした作品ができあがった。動画の編集や作品の修正はLINEを使って一斉に行う班も多く、効率よく制作を進めることができた。タイトルは「虎になった理由」「李徴の後悔」「人間の弱さ」等、主題に関するものが多い。



生徒作品例①



生徒作品例②

評価について

評価シートを使って、S・A（規準）・B・C四段階の、自己評価及び他者評価を行った。生徒たちの評価は、自他ともに、SとA評価あわせて八割以上という結果であった。

知識及び技能

言葉の特徴や使い方、文章の特徴について理解することができたか。

語感を磨き、語彙を豊かにすることができたか。

思考力・判断力・表現力等

主体的に文章を読み、読み取った内容の要点を、他者に伝えることができたか。

他者の意見を知って共感したり、自分の考えを広げたり深めたりすることができたか。

ICT機器を使って効果的に表現することができたか。

主体的に学習に取り組む態度

自分のことに置き換えて考えることで、現代社会の人間の生き方や在り方に目を向けることができたか。

班学習に意欲的に取り組むことができたか。

成果及び今後の課題

単元後に再び行ったアンケートでは、約七割の生徒が「国語が好き、または興味がある」と答え、ICT機器を用いた

授業が好きと答えた生徒も七割に増えた。また、取組の前と比較して、話し合いや発表を取り入れた授業が好きであると答えた生徒が過半数を越え、内容も前向きなものが多かった。

【生徒の感想（一部抜粋）】

- ・自分の意見と相手の意見を交わし合うことで互いに気付くことのなかった新たな発見があった。
- ・自分の意見だけでなく、いろいろな人の意見にふれることで見えてくる世界が変わった。
- ・友達と一緒に話しながらすると、自分では気付かなかったことに気付いて勉強になった。
- ・自分の考えを表して満足するだけでなく、周囲と協力したりして、考えを深めていくことが大切だと考えた。

今回は「伝え合う力」を高めることに重点をおき、読み取った内容を自由な発想で表現するようにしたため、生徒たちが楽しみながら意欲的に取り組む様子が多く見られた。また、ICT機器に関しては、生徒たちのスキルであれば、さらに創造的な活用も可能であると確信した。

課題として、生徒たちの思いや考えをもっと広げたり深めたりする必要性を感じている。今後は、たとえば漫画作品と自分たちの作品を比較し検証すること等、思考力を育成することを意識しながら、授業改善に取り組んでいきたい。

紫式部にファンレターを書こう②

おおくら ひろし
大倉浩
筑波大学教授

第四回では、紫式部へのファンレターを書き始めました。今回はその続きです。

課題 次の文章を、紫式部がわかるように書き換えよう。

あなたの書いた物語の「きりつぽ」を読みました。死んでしまう桐壺更衣がとてもかわいそうでした。

まずは日本語の「現古辞典」を使って

あなた↓おもと

と訳してみたのが前回でした。同じく「現古辞典」を使って調べると、そのままの語も多いのですが、

(物語を) 書く↓ものす

死ぬ↓なくなる

とても↓いと

かわいそう↓あはれなり

と、自立語には翻訳候補の単語が見つかります。ところが、「の・を」や「た」といった付属語(助詞・助動詞)も翻訳しなくてはいけないのですが、「現古辞典」は自立語が基本なので載っていません。さあどうしましょう。そこで古典文法の出番です。まず、国語の教科書や古語辞典の「助詞一覽表」「助動詞一覽表」を使って、現代語訳に「…ノ」や「…タ」とある語を探してみましょう。

「あなたの」の助詞「の」は、主語に付いていますから、古語でも格助詞「の」がそのまま使えそうです。「物語の」は連体「の」が、「きりつぽ」を「は目的」を「が、そのまま使えそうです。

ところが、「書いた」と「読みました」の「た」は、

れているので、ここは直接経験の「き」です。それれを、連体形、終止形に活用させて、

おもとのものしつる物語の「きりつぽ」を読みは
べりき。

と古文訳ができました。

それにしても、助動詞の翻訳にこんなに手間がかかるのはなぜでしょう？ それは、古語の助動詞で残っているものが少ないからです。もう一度「助動詞一覽表」を見てみると、約三十種の古語助動詞のうち、活用が違っても現在使われるのは十種ほど、残る二十種は残っていません。「完了」「過去」の助動詞でいえば、「たり」が「タ」のかたちで残りましたが、他の五種は衰退しています。残っていないければ私たちは現代語からの類推ができませんから、改めて古語として意味や活用を覚えなくては古文が読めないのです。

日本語も変化しますから、千年も経てば衰退して残らない語があつて当然ですが、同じ付属語でも助動詞を見てみると、約五十種のうち三十四種ほどは残っています。衰退したのは十六種ほど、三分の一です。くらべてみると、助動詞は大きく変化しています。このことを含めて、ファンレターの翻訳は続きます。



古典文法に関するご質問をお寄せください。

→大修館 HP 内「WEB 国語教室」からもお送りいただけます。

<https://www.taishukan.co.jp/kokugo/media/>

助動詞「つ」「ぬ」「たり」「り」「き」「けり」と六種類も候補があります。現代語訳では「タ」一つであり気にならなかった「完了」と「過去」の意味の違いを、はつきりさせなくては訳せませんね。そうした疑問を持ちながら、古典文法の副読本や古語辞典でこれら六種類の助動詞の意味を調べると、これまでモヤモヤしながらも「タ」で訳して済ましてきた、六種類の助動詞の違いが少しずつ見えてくるはずですよ。

まず「書いた」は、紫式部が過去に書いたというより、書き上げ完成させた(物語)という意味ですから、完了の意味がふさわしいでしょう。「たり」「り」は存続(テイル)の意味がもととですから、「つ」か「ぬ」に絞られます。この二語について、副読本や古語辞典では、意志的動作(他動詞)に「つ」、自然的推移(自動詞)に「ぬ」、という違いが必ず説明されています。ここは、物語を書くという意志的動作ですから「つ」に絞られます。サ変動詞「ものす」の連用形に接続です。いっぽうの「読みました」は、書き手が過去にしたことの報告ですから、過去の意味の「き」か「けり」ですね。これも、直接経験の「き」と、間接伝聞の「けり」というような違いが、副読本や古語辞典に説明さ

入れ替えられない「心」と「気持ち」

関根 健一
せきね けんいち

●日本新聞協会用語専門委員。元読売新聞東京本社編集委員。文化審議会国語分科会委員。大東文化大学非常勤講師。著書に「なぜなに日本語」「なぜなに日本語もった」(三省堂)、「ちびまる子ちゃん」の敬語教室(集英社)など。

グラウンドの片隅に小さな花が咲いているのを見つけた。どこからか鳥の声が聞こえてきます。新シーズン到来！ 昨年度は惜しくも初戦で敗退したわがチームも、いよいよ始動です。さて、決意のほどは？ 「気持ちを入れ替えて取り組み組もう」——頑張つて。「ぼくも、心を入れ替えて……」
——おや、君は何かやらかしてしまつたのかな。不祥事はまずいよ。

*

「心」と「気持ち」は、どちらも人間の精神活動を指す言葉です。「心」は精神活動をつかさどる本体、精神の働きそのものを指します。一方、その都度変化する心の状態に注目するなら「気持ち」がふさわしいでしょう。失敗にめげずに前向きに考えよう、精神状態をプラスの方に持つてい

こう、というのが「気持ちを入れ替える」です。「心を入れ替える」だと、精神活動の本体そのものを別のものに替える、それまでの考え方を改める(改心する)ことになってしまいます。なんだから、悪人が前非を悔いて再出発するようで、誤解されそうです。

「気持ちを入れ替える」は、「気持ちを切り替える」ともいいます。こちらが本来の言い方で、「心を入れ替える」に引かれて、「気持ちを入れ替える」ともいうようになったのかもしれませんが、意味は同じにはなりません。

*

「くが揺れる」「くをつかむ」「親のく」といった場合は従来、主に「心」が使われてきましたが、「気持ち」でも意味が変わることはないでしょう。

ただ、精神のよつてきたる「心」を用いた方が深さ、強さを感じられます。デートに誘われて、行こうかどうか気持ちが揺れますが、突然、愛を告白されたら心が揺れます。有権者の気持ちをちゃんと当選しても、期待に沿えなければすぐ離れていくでしょう。でも、いったん、心をつかめば岩盤支持層となつて、ずっと支えてくれるに違いありません。一点でもよい成績を取つてほしいのが親の気持ちです。とはいえ、あまり無理して体を壊したりしないでねというのが親の心です。

*

「心持ち」という言い方もありました。「気持ち」よりも古くからある言葉で、『日本国語大辞典』などによれば、もとは、心の持ち方、気立てを指しましたが、物事を感じた心の状態という場合が増え、「気持ち」と似た意味で使われるようになりしました。ところが、現在では「気持ち」の使用が優勢になったため、「心持ち」というと、どことなく古めかしい響きがあります。

*

心の持ち方、気立ての意味でなら、やはり古風

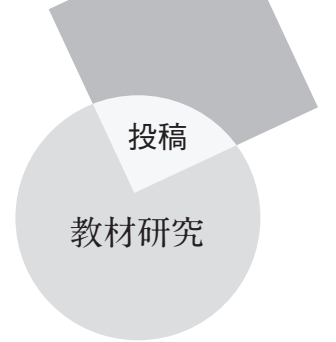
ですが、「心ばえ」が好まれるでしょうか。「インスタ映え」の「映え」ではありません。漢字では「心延え」と書きます。「延える」は、長く延ばす、張り渡すことで、長い縄に釣り糸をつけて魚をとる「延縄」の「延」と語源は同じです。

心の働きが外へ向かつて行き渡り、相手の心に届けられるのが「心ばえ」でしょう。ことさらに「映え」させる必要はないのです。

*

不快な心持ちを追い遣つて、発散させるのは「心遣り」と言います。「(長く)太い鼻を気にしている(ぜんないぐ) 禅智内供は」内典外典の中に、自分と同じような鼻のある人物を見出して、せめても幾分の心やりにしようとさえ思った(芥川龍之介「鼻」)。つまりは、うさばらしです。

ところが近年、「温かい心やりに感激する」「心やりの医療」といった使い方もされます。『三省堂国語辞典』には第二版(一九七四年)から、「思いやり。同情」の意味が載りました。「うさばらし」とは正反対の心の働きということになり、まだ認めていない辞書が多数派です。



投稿

教材研究

『こころ』を立体的に読む

——絵端書・日光・晩餐・殉死——

いしかわ みつお
石川 光男
千葉敬愛高等学校非常勤講師

漱石は『こころ』に多くの仕掛け・謎を書き込んだ。副表題の「絵端書・日光・晩餐・殉死」をそれぞれ関連付け、少しばかり立体的に読み解くことで、その仕掛け・謎を解いてみた。

■日光から紅葉の郵便

「上三十二」からは青年（「上」の大学生）の大学卒業を祝う晩餐が描かれていて、青年と先生と奥さんの三人だけの慎ましい晩餐だった。晩餐は先生の「御目出とう」と云って「新潮文庫」以下同様、祝杯を挙げることから始まった。話題も卒業証書、青年の将来、財産、青年の父の健康のことなどに及んだ。時間も経ち、晩餐も

お開きに近づいていった。

「じゃ随分御機嫌よう。私達もこの夏はこじよ。随分暑そうだから。行ったら又「絵端書」でも送って上げましょう」（上三十四／傍点リ石川）

そう奥さんは言った。「又」とある通り、以前奥さんは青年に「絵端書」を送ったことがあるのである。そう思つて『こころ』を読み返してみると、「上九」に「絵端書」に関する記述があった。

「先生は時々奥さんを伴つて、音楽会だの芝居だのに行った。『略』私は箱根から貰つた絵端書をまだ持つてゐる。日光へ行った時には紅葉の葉を一枚封じ込めた郵便

便も貰つた」（上九）

この箱根へ行った時、奥さんが青年に出した「絵端書」が「又絵端書でも送って上げましょう」と言つた「絵端書」である。すると晩餐の夜の時点では、まだ日光へは行っていないことになる。この後先生夫妻は日光へ行き、奥さんは「絵端書」ではなく「紅葉の葉を一枚封じ込めた郵便」を青年に送つたのである。では改めていつ日光へ行ったのか考えてみる。

「上三十五」で晩餐が終わり、青年が玄関を出た夜は、史実の東京帝国大学の卒業式の日（明治四十五年七月十日）ではなく、『こころ』が設定した七月一日（（注1））の夜で、それ以後に先生夫妻は日光に行った

「萬有の真相は唯だ一言にして悉す、曰く、「不可解」。我この恨を懷いて煩悶、終に死を決するに至る」（一部）

ことになる。季節は「紅葉の葉を一枚封じ込めた」とあるから秋である。そして、先生は明治天皇御大葬の日の大正元年（明治四十五年）九月十三日に乃木大将が殉死したことに衝撃を受け、「三日して、私はとうとう自殺する決心をした」（下五十六）とある。ということは九月十三日以前に日光へ行った可能性が高い。日光（栃木県）の例年の紅葉見頃は十一月上旬から十一月中旬で、奥日光の戦場ヶ原・小田代原では九月上旬である。奥日光に行つたなら話に整合性がある。

■漱石と日光

その日光は漱石にとって謂われのある場所である。漱石は明治三十六年一月、英国留学から帰国して第一高等学校講師（東京帝国大学講師（前任者・小泉八雲）と兼任）に就任した。その四ヶ月後の五月二十二日、生徒の一人・藤村操（一年生・十六歳）が日光華厳の滝から投身自殺をしてしまったのである。藤村は華厳の滝に飛び込む際、滝上にあつた樫の大樹を削り、「巖頭之感」と題する遺文をそこに彫りつけていた。

「萬有の真相は唯だ一言にして悉す、曰く、「不可解」。我この恨を懷いて煩悶、終に死を決するに至る」（一部）

自殺する数日前の五月十三日、漱石は授業中の藤村の学習が怠慢であり、しかも態度が反抗的だったので叱つたことがあつた。更に一週間後の五月二十日にも同様に怠慢であり、反抗的であつた。漱石は「勉強する気がないなら、もうこの教室にこなくてよい」と叱責したという。自殺したのはその二日後である。この悲報を知り漱石は「深い衝撃を受ける。『新体詩』に詠んだり、『吾輩は猫である』（第十）でも扱つたり、『文學論』第一篇第三章でも触れてゐる。東京帝国大学でも大きい話題になる」（荒正人『漱石文学全集』別巻 漱石研究年表 集英社）。「この事件は長く世間を騒がせた。また模倣するものが続出した。（その後、十数名の学生が華厳の滝で自殺する）」（同）。自殺から三年も経つた『草枕』で、漱石は藤村を擁護して書いている。

「昔し巖頭の吟を遺して、五十丈の飛瀑を直下して急湍に赴いた青年がある。余の視る所にては、彼の青年は美の一字の

爲めに、捨つべからざる命を捨てたるものと思ふ。死其物は洵に壯烈である、只其死を促がすの動機に至つては解し難い。去れども死其物の壯烈をだに體し得ざるものが、如何にして藤村子の所作を嗤ひ得べき。彼等は壯烈の最後を遂ぐるの情趣を味ひ得ざるが故に、たとひ正當の事情のもとにも、到底壯烈の最後を遂げ得べからざる制限ある點に於て、藤村子よりは人格として劣等であるから、嗤ふ権利がないものと余は主張する。」（岩波版・漱石全集『草枕』十二）

若い時に出遇つた一生徒の死、その死に自分が係わつたという事実を漱石は拭いきれなかつた。藤村は漱石の心の片隅にいつまでも遺る「生徒」となつた。日光は漱石の心に遺恨を残し、忘れられない地名となつた。その日光から「紅葉の葉を一枚封じ込めた郵便」（上九）を青年に送つた生きること疑問を持たない奥さんと、その奥さんとは対照的に「自殺より外にない」（下五十五 後述）と「感ずるようになった」（同）先生——その先生にとって最期の旅先を日光に設定したのは、漱石にこのような

理由があったからではないか。

■乃木大将の「殉死」と「晩餐」

日清戦争、明治天皇崩御などの史的事実を漱石は『こころ』に書き込んでいる。乃木大将の殉死もその一つである。明治天皇崩御に伴う御大葬の日の九月十三日、乃木希典は妻と共に殉死した。その殉死の日を境として先生の、死に対する記述に変化が見られる。乃木大将の殉死前は、「必竟私にとって一番楽な努力で遂行出来るものは自殺より外にないと私は感ずるようになったのです」(下 五十五／傍点 石川)

と自殺を「感ずる」とある。この時、先生は理由はどうであれKを自殺に追い込んでしまったという苦しみに十二年間(石原千秋氏)苛まれ続けて来たのである。「不思議な怖ろしい力」(下 五十五)によって、「死の道」(同)だけが「私のために開」(同)かれてあるようになるまで、追い込まれていたのである。しかし、殉死後は、

「それから二三日して、私はとうとう自殺する決心をしたのです」(下 五十六／傍点

先生は「それぎり奥さんの厭がる事を云わなくなった」のである。この時先生が〈見た〉ものは、先生に買って貰った反物を「膝の上に置いて眺めて」(下 十八)いた「御嬢さん」でもなく、「これから世の中で頼りにするものは一人しかいなかった」(下 五十四)、「男の心と女の心とはどうしてぴたりと一つになれないものだろうか」と「同」訊いた「妻」でもなかった。先生が〈見た〉ものは、生きることへの強靱さ・強かさを獲得し、自立・自律した妻であった。このことを確認した時、先生は心に期するものがあつた——「妻は自分を頼りにしない生き方を擱んだ。これで死ぬことが出来る」と。「倫理的に生まれ」「倫理的に育てられた」(下 二)先生にとって自身が自殺した後、妻は生きていくことが出来ることをこの晩餐で確認できたのである。これこそ、先生が晩餐を設定した真の理由である。そして、妻のこの言葉から導き出された死への決意こそ、先生が青年に約束した「適当な時期」(上 三十二)に当たり、乃木大将の死と共に自殺を「決心」(下 五十六)させるスプリングボードであつた。先

(同)

と自殺する「決心をした」に変わっている。つまり、乃木大将の殉死は先生に自殺を決行させる契機——スプリングボードの役目を果たしたのである。しかし、もう一つスプリングボードが既に書き込まれていたのである。それは前述した「上 三十二」から始まる晩餐の中にある。

まずこの晩餐が時系列に記述してある「下」のどこに位置するか考察してみる。「下」の「五十五」に「九月になったらまた貴方に会おうと約束した私」という内容は「上 三十五」にもある。しかし、「すると夏の暑い盛りに明治天皇が崩御になりました」(下 五十五)という明治天皇崩御の記述は「上」にはない。「中 五」に初めて出てくる。ということは、厳密には「全く会う気でしたのです」と「秋が去って、冬が来て、その冬が尽きても、きつと会う積りでしたのです」の間に「上」が入ると思われる。こう考えるとこの時点、つまり晩餐の時点で先生は、「自殺より外にない」(下 五十五)と「感ずるようにな」(同)っていたのである。

生は妻の生きる意欲を確認した後、青年と約束した通り、「過去を残らず」(上 三十二)青年の都合を考慮して「手紙」(下 一)として「書き出した」(下 二)のであつた。

■おわりに

『こころ』を立体的に読み解いてみた。特に「日光」及び「晩餐」設定の真意を解説したつもりである。『こころ』が新聞連載であったことを考えると、漱石は「上」の「晩餐」記述の段階で「下」を見据えていたのである。構想の深さに驚嘆する。

注1…青年の卒業式当日に行われた「晩餐」の翌日、青年は「暑さを冒して、頼まれものを買い集めて歩いた」(上 三十二)「それから三日目の汽車で東京を立て国に帰った」(同)とあり、「私が帰ったのは七月五六日」(中 五)という記述を勘案すると、漱石は青年の卒業式を七月一日(月)か二日(火)に設定していたことになる。

注2…この文は整合性を欠いている。なぜなら先生がこの「手紙」を書き終えたのは、乃木大将殉死(御大葬の日：九月十三日) + 「二三日して、私はとうとう自殺する決心をしたのです」(下 五十六) + 「私が死のうと決心してから、もう十日以上になります。その大部分は貴方にこの長い自叙伝の

そして、その晩餐は祝杯を挙げ青年の卒業を祝う晩餐であつた筈である。しかし、青年はそう感じていなかった。しかも「先生の云い方も決して私の嬉しさを唆る浮々した調子を帯びていない」(上 三十二)ばかりか「目出たいという真情も汲み取る事が出来なかった」(同)のである。では、なぜ先生はこの晩餐を設けたのか。

青年が帰ろうとして「席を立とうとした時、先生は急に私をつらまえて、『時に御父さんの病気はどうなんです』」(上 三十四／傍点 石川)と切り出した。ことの奇異に氣付いた青年は「立て掛けた腰を又卸して、話の区切の付くまで二人の相手」(上 三十五)にならざるを得なかった。そして二人の話が先生自身の死の話に及んだ時、奥さんは突然、語調を変えて言った。

「おれが死んだら、おれが死んだらって、まあ何遍仰しやるの。後生だからもう好い加減にして、おれが死んだら止して頂戴。縁喜でもない。あなたが死んだら、何でもあなただの思い通りにして上げるから、それで好いじゃありませんか」(上 三十五)

一節を書き残すために使用されたものと思つて下さい」(同)という記述から、同年の九月下旬頃と思われる。その年を越していない。このことと「秋が去って、冬が来て、その冬が尽きても」とは矛盾する。なぜならこの箇所は、「(大正元年の)秋が去って、冬が来て、(翌年)その冬が尽きても」という意味に解することができ、冬が到来して「その冬が尽き」ということは、その年を越していたことになるからである。

注3…『漱石自筆原稿「心」』(岩波書店)では、傍点の「急に」は当初「聞いた」に係っていたが、訂正後は「急に」を見せ消ちのようにして消去してある。そして、最後にその「急に」を吹き出しのように加筆して「つらまえて」に係っている。これが本文にある文である。

ジャン・ルー・シャブレ／原田宗彦 著

オリンピックマネジメント

世界最大のスポーツイベントを読み解く

四六判・並製・二四〇ページ
予価Ⅱ一八〇〇円＋税



評者Ⅱ木村 信

二〇二〇年七月二四日開幕。オリンピック東京大会がいよいよ迫ってきた。

ボイコット、汚職など組織の存在を揺るがす大きな危機を何度も乗り越え、世界最大のスポーツイベントという地位を獲得したオリンピック。どのような理念、組織体制で運営され、どこに向かつて進んでいくか、そして向かって進んでいくか、知っているのだろうか。開催の前に知っておきたいところだ。

本書では、オリンピックの意義を知り、過去に招致にもかかわった著者二人が、オリンピッ

クの過去・現在、そして将来に向けての理念、運営・ガバナンス、課題などを様々な視点から解き明かしていく。

また、二〇二〇年の東京大会が将来のオリンピックのあり方、そして日本の経済や社会全体に何を残していくのか、そのためにどのような大会を目指すべきなのか、について丁寧論じている。

東京において二回目の開催となるオリンピックは、私たちに、そして世界にどんなインパクトを与えるのだろうか。

NPO法人バイリンガルバイカルチュラルろう教育センター(BBCC) 岡典栄／マーティン・デールⅡヘンチ 著

目で学ぶ英語レッスン

B5判・並製・九六ページ
定価Ⅱ本体一五〇〇円＋税



評者Ⅱ大井 悟

東京パラリンピックがいよいよ間近に迫ってきた。パラスポーツもテレビ等で頻繁に取り上げられるようになり、俄然興味が湧いてきた、という方も多いのではないかな。

ダイバーシティの時代。ろう者や難聴者も、社会に出て活躍し、自由に世界を闊歩し、世界中の人々と交流を楽しむ権利がある。しかし、そこに立ちふさがるのが「英語の壁」だ。音声を用いた英語教育が前提とされる教育システムの中で、ろう者や難聴者は十分な英語習得の機会が得られずにいるという。そこで本書の登場である。「書き言葉」としての英語を身につけることを目的とし、アルファベットから基本的な文法、実践的な活用場面まで、「目で見てわかる」ようにイラスト入りで解説されている。しかも、QRコードで手話の解説動画とリンク！これ一冊を丁寧に字で、メールやSNSで外国人とやり取りができるようになるはずだ。英語の世界への入り口を広げる、多様性の時代を象徴するような「英語レッスン」である。

有地京子 著

名画で味わうギリシャ神話の世界

神々・美女・英雄たちの愛の物語

四六判・並製・二五六ページ
定価Ⅱ本体二四〇〇円＋税



評者Ⅱ大森京子

ボッティチェリの『春』、カラヴァッジョの『パックス』…ギリシャ神話を描いた名画は数多い。本書は四〇の作品を通して、ヨーロッパ精神の源流である神話を味わう解説書である。

歴史画と呼ばれるこうした絵画は、元々は高貴な人々の邸宅を彩る装飾として、子孫繁栄などを願って発注されたものだった。画家は物語場面を自由な解釈で切り取り、天上の世界を独自の美意識で生々しく描いた。例えばオランダの名匠レンブラントは、ゼウスが愛した美少

年ガニメデスを、あえて恐怖で泣き叫ぶ丸々と太った幼児として描く。これには画家が生きたバロックの時代の人体像の理想化を良しとしない価値観と、プロテスタントの道徳観に基づく同性愛への違和感が衝撃的な場面を通じて反映されている。

画家が絵画という雄弁なメディアにしかけた二重三重のからくりを、観る者たちは読み解き教養の糧とした——そんな当時の知的遊戯に思いを馳せるのもまた一興。本書をガイドに、名画に触れてみたくなる一冊だ。

伊藤実歩子 編著

変動する世界の大学入試(仮)

A5判・上製・二五六ページ
予価Ⅱ三〇〇〇円＋税

近 刊



評者Ⅱ荒木 信

大学入学共通テストにおける記述式出題の延期は記憶に新しい。しかし、世界に目を向けると、共通試験で記述式の出題を行う国は多い。本書で主に取り上げている欧州各国の試験でも、ほとんどの国で記述式が取り入れられており、イタリアなどでは、口述試験もあるそう。

ただ、これらの試験制度は、歴史的背景や考え方の面で、日本の制度と隔たりも大きい。例えば、記述式を含むイギリスのAレベルという試験では、結果に対して異議申し立てが可能で

あり、実際に結果が覆ることもある。さらにその採点を、現職の高校教師らが担っていると聞けば、文化の違いに驚くだろう。また、欧州の教育も順風満帆というわけではなく、PISAショック以降、教育改革の必要性が議論され、試験制度についても変動が生じている。

本書では、そのような欧州の試験事情を、各国の歴史的背景から最新情報までをふまえて、詳しく解説してくれている。日本の入試を相対化し、再考する上で必読の一冊となるだろう。

2019.12~2020.2

国語の

News & Topics

国語・教育に関わる情報と
授業に役立つ話題を集めました。

教育行政関係

- OECD、PISA 結果公表。日本の読解力は過去最低に並び 15 位に (12/3)
- 「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」を閣議決定。GIGA スクール構想を盛り込む (12/5)
- 「GIGA スクール構想」のための予算(令和元年度補正予算)が閣議決定 (12/13)
- 大学入学共通テストの記述式問題導入見送り (12/17)
- 文科省、公立学校の「働き方改革の取組状況調査」結果公表。勤務実態の把握方法などについて調査 (12/25)
- 中教審「新しい時代の初等中等教育の在り方 論点取りまとめ」公表 (12/26)
- 第 1 回大学入試のあり方に関する検討会議開催 (1/15)
- 令和 2 年度大学入試センター試験実施 (1/18,19)

時事

- WADA (世界反ドーピング機関)、ロシア選手団を主要国際大会から 4 年間排除 (個人参加は可) と発表 (12/9)
- 芥川賞は『背高泡立草』(古川真人)、直木賞は『熱源』(川越宗一) が受賞 (1/15)
- 政府が新型コロナウイルスの影響により、小中高の休校を要請 (2/27)

GIGA スクール構想

GIGA スクール構想とは、学校の ICT 環境整備のために打ち出した施策。2023 年度までにすべての小中学校の児童生徒に一人一台の端末機器の整備、および高速大容量の通信ネットワークの整備を一体的に実現しようとするもの。GIGA スクール構想の GIGA は「Global and Innovation Gateway for All」の略。従来から ICT 環境整備のための事業は行われていたが、進捗が思わしくなかった。12 月 13 日に閣議決定された補正予算案では、そのための予算

も盛り込まれた。https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm

大学入学共通テストの変更点

2021 年 1 月に実施予定の大学入学共通テストについては、英語の民間試験の活用と国語と数学の記述式問題の導入が見送りととなった。

* 英語の民間試験活用の見送り

大学入学共通テストへの導入は見送られた。大学入学共通テストとして「リーディング」「リスニング」を一〇〇点ずつの計二

〇〇点満点で出題する。

大学独自に民間試験を活用することは認められ、2020 年 1 月 10 日現在、513 の大学・短期大学が活用するとしている。

* 国語、数学 I、数学 I・A への記述式問題の導入の見送り

大学入学共通テストへの導入は見送られた。国語は記述式の大問がなくなり、当初予定の 100 分から 80 分に試験時間が短縮される。数学 I、数学 I・A は問題数が維持され、時間数は当初予定の 70 分のまま実施される。

詳細については、文部科学省及び大学入試センターのサイトを確認された。

文部科学省 (https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/1397731.htm)
大学入試センター (https://www.dnc.ac.jp/daigakunyugakukibousyagakuyokuhyo_ka_test/index.html)

令和 2 年度大学入試センター試験実施
2020 年 1 月 18、19 日の二日間、大学入試センター試験が実施された。

研究会・展覧会など

日本方言研究会 第 110 回研究発表会

[日時] 2020 年 5 月 15 日 (金)
[場所] 立正大学 品川校舎
[問合せ] <http://dialectology.jp.org/>

日本語学会 2020 年度春季大会

[日時] 2020 年 5 月 16 日 (土)・17 日 (日)
[場所] 東京外国語大学
[問合せ] <https://www.jpling.gr.jp/>

全国大学国語教育学会 第 138 回島根大会

[日時] 2020 年 5 月 30 日 (土)・31 日 (日)
[場所] 島根大学 松江キャンパス
[問合せ] <https://www.itsj.org/>

全国漢文教育学会 第 36 回大会

[日時] 2020 年 6 月 27 日 (土)・28 日 (日)
[場所] 岩手大学
[問合せ] <http://www.zenkankyo.gr.jp/>

国語教育学会 第 83 回全国大会

[日時] 2020 年 6 月 20 日 (日)・21 日 (月)
[場所] 筑波大学附属小学校
[問合せ] <http://nikkokug.org/>
※オンライン化の影響により時期変更

全国大学国語教育学会 第 139 回山口大会

[日時] 2020 年 10 月 31 日 (土)・11 月 1 日 (日)
[場所] 山口大学 吉田キャンパス
[問合せ] <https://www.itsj.org/>

鹿児島県と沖縄県を担当させていただくようになり、間もな
く二年になります。単身赴任のため食事には気を使っています
が、鹿児島県は生鮮食料品がとにかく安く、大変助かっていま
す。白菜やキャベツがひと玉百円前後で買えるのには只々感謝
しかありません。(尤も、丸々と大きく育った白菜を一人で食べ
きるのにはなかなか大変です。:) 沖縄県へは二週間かけての出
張となります。地元の食堂で出てくる定食は野菜がふんだんに
使われ、しかも安くて美味しいです。また、弁当屋では手作りの
良心的な弁当を売っています。お陰で健康的な食生活が出来ており、有難いかぎりです。
日々感謝しつつ、業務に励んでおります。

福岡支店 小島康盛



春といえば高校生にとって、とてもワクワクする季節なのでは
ないでしょうか。新しい教室、新しい友達、新しい先生、そ
して新しい教科書。私が高校生だったころ、新学期になり新し
い教科書が配られると、必ず行っていたことがあります。それ
は、国語の教科書を一通り読み終えることです。本を読むことが好
きだった私は、配られた瞬間から夢中になって読んでいました。
これから、学習指導要領や大学入試が大きく変わりますが、
文章の世界に入り込み、そこから何かを学ぶという、国語科の
本質は変わらないと思います。大修館の一社員として、高校生の皆さんが夢中になれるよ
うな教科書をご紹介できれば幸いです。

東京支店 江頭佑紀



入社三年目の春を迎えました。私は
花の中では藤が一番好きなのですが、
この時期はやはり桜も待ち遠しいなと
感じます。家の近所の公園では、毎年
きれいな八重桜が咲きます。福々しい
というか、あのふくらとした花弁を
見られるのが楽しみです。▼さて、本
号では二〇二二年度から実施される次
期学習指導要領について特集しまし
た。戦後最大の教育改革といわれ、メ
ディアではさまざまな憶測や、不安視
する声なども飛び交っているよう
です。そこで今回の特集は、新しい国語
についての情報を整理・紹介すること
で、素朴な疑問が湧いたときにサッと
参照していただけるようなものを目指
しました。新指導要領のミニガイドと
して、先生方が授業を行われる際の
一助となれば幸いです。▼コロナウイル
ス感染防止のため、全国で休校要請が
出されています。前例のないことで、
先生方もご対応に苦慮されていること
と存じます。桜が満開になる頃には、
事態が収束に向かい、無事に新学期が
迎えられることを切に願います。(土)

【投稿規定】

国語教育や国語の授業に関する具
体的な提案、実践記録、教材研究など、
投稿を募集しています。四〇〇字×
六〜二枚(二九字×二六一行)程度。
(紙幅等の都合により掲載できないこ
ともあります。ご了承ください)。

国語教室 第113号
2020年4月15日発行

編集人 国語教室編集室
発行所 鈴木一行
印刷所 広研印刷株式会社
発行所 株式会社大修館書店
〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1
電話 03(3868)2651(販売部) 03(3868)2291(編集部)

出版情報 <https://www.taishukan.co.jp>